

令和7年度 環境放射線測定結果

(令和7年4月～令和8年3月)

令和7年度（令和7年4月～令和8年3月）

環境放射線測定結果

① 測定所での監視

1. 空間放射線空気吸収線量率
2. 浮遊じん中の全 α ・ β 放射能

② 環境放射能測定車、環境放射線調査車での監視

1. 環境放射能測定車による測定
2. 環境放射線調査車による測定

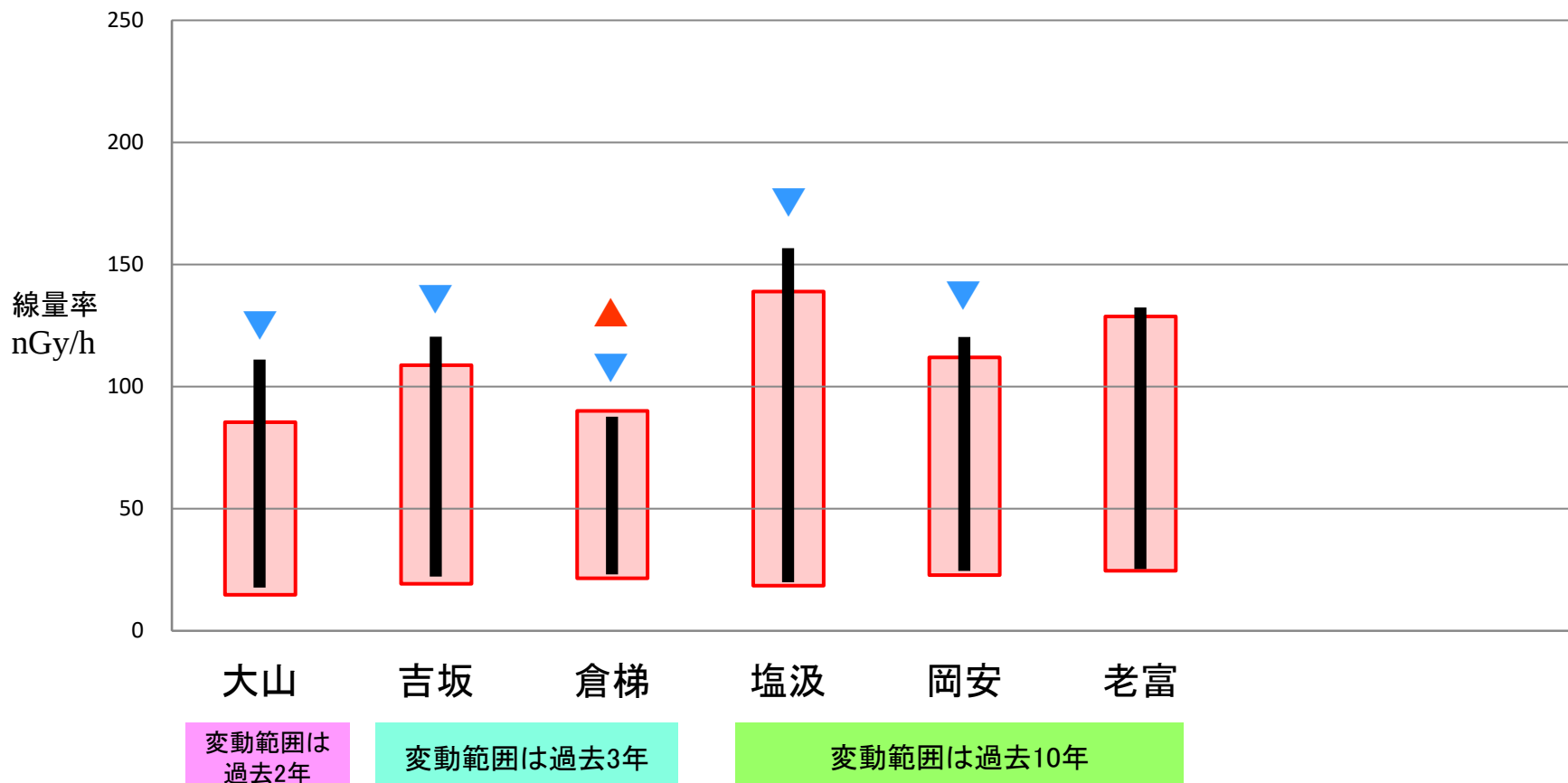
③ ガンマ線放出核種分析、トリチウム分析、ストロンチウム分析結果

空間放射線空気吸収線量率 測定結果

- 11箇所の測定所で過去*の変動範囲を超過し、他は過去*の変動範囲内でした。
- 線量率の過去*最大値超過は全て降雨雪等に伴うものと考えられる。（*過去＝10～2年）
（スペクトルに人工放射性核種が認められない）

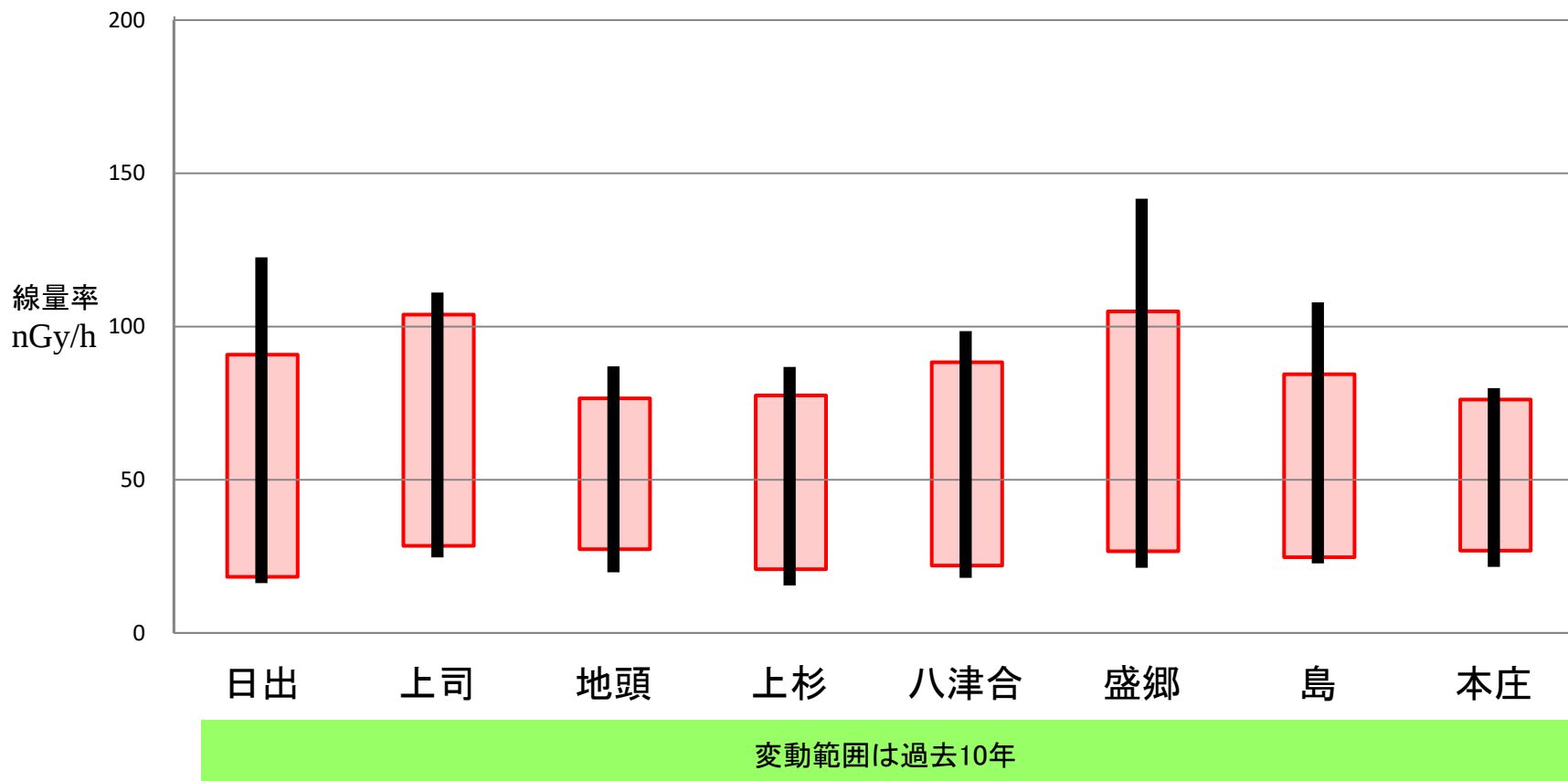
（資料 3 － 2 p.1-11）

周辺局(1/2)



赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大～最小。
三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

周辺局(2/2)



赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大～最小。
 三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

空間放射線 空気吸収線量率 測定結果（令和7年度）／関西電力

関西電力

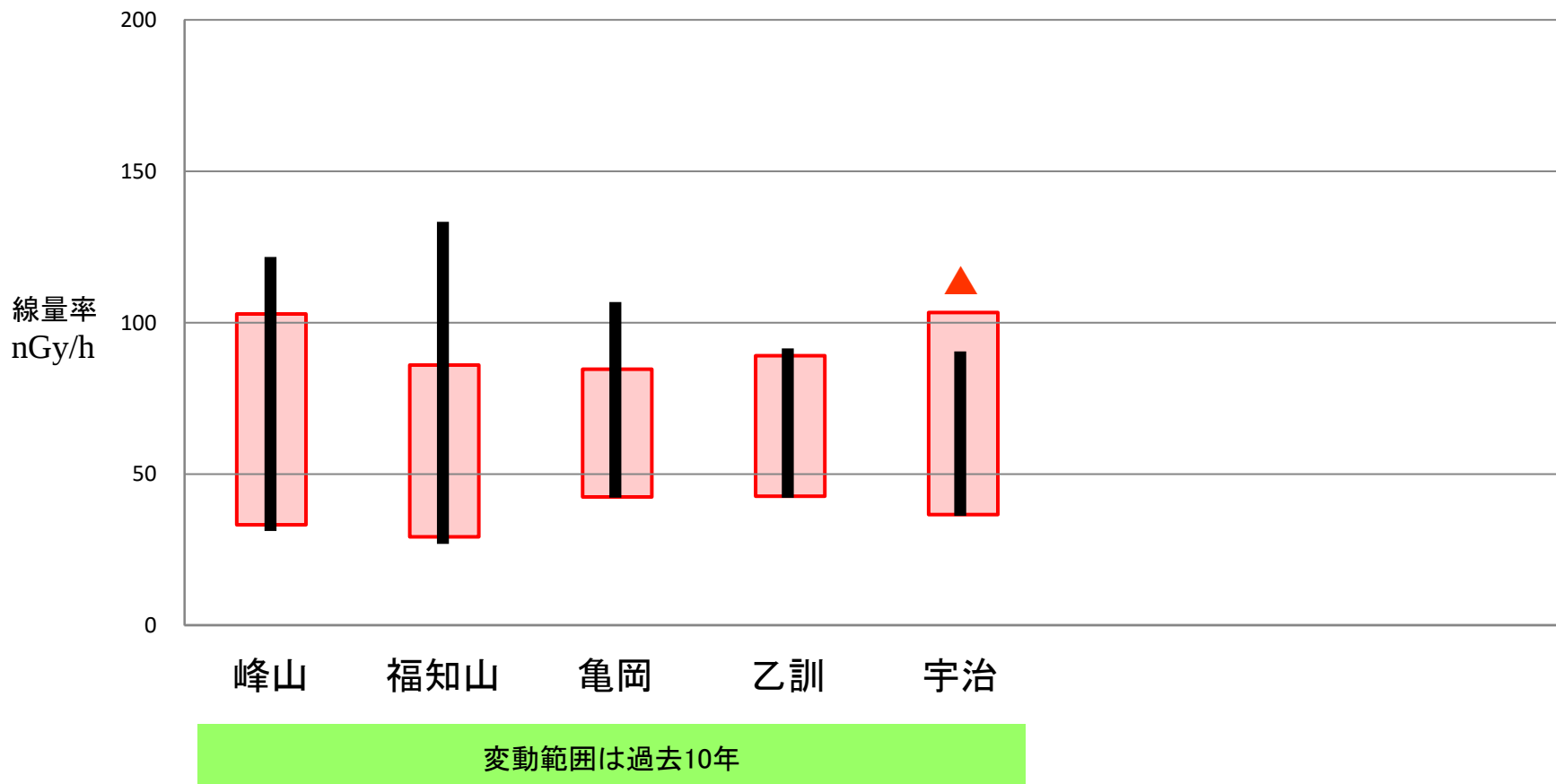


変動範囲は過去3年

赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大～最小。
三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

空間放射線 空気吸収線量率 測定結果（令和7年度）／府独自

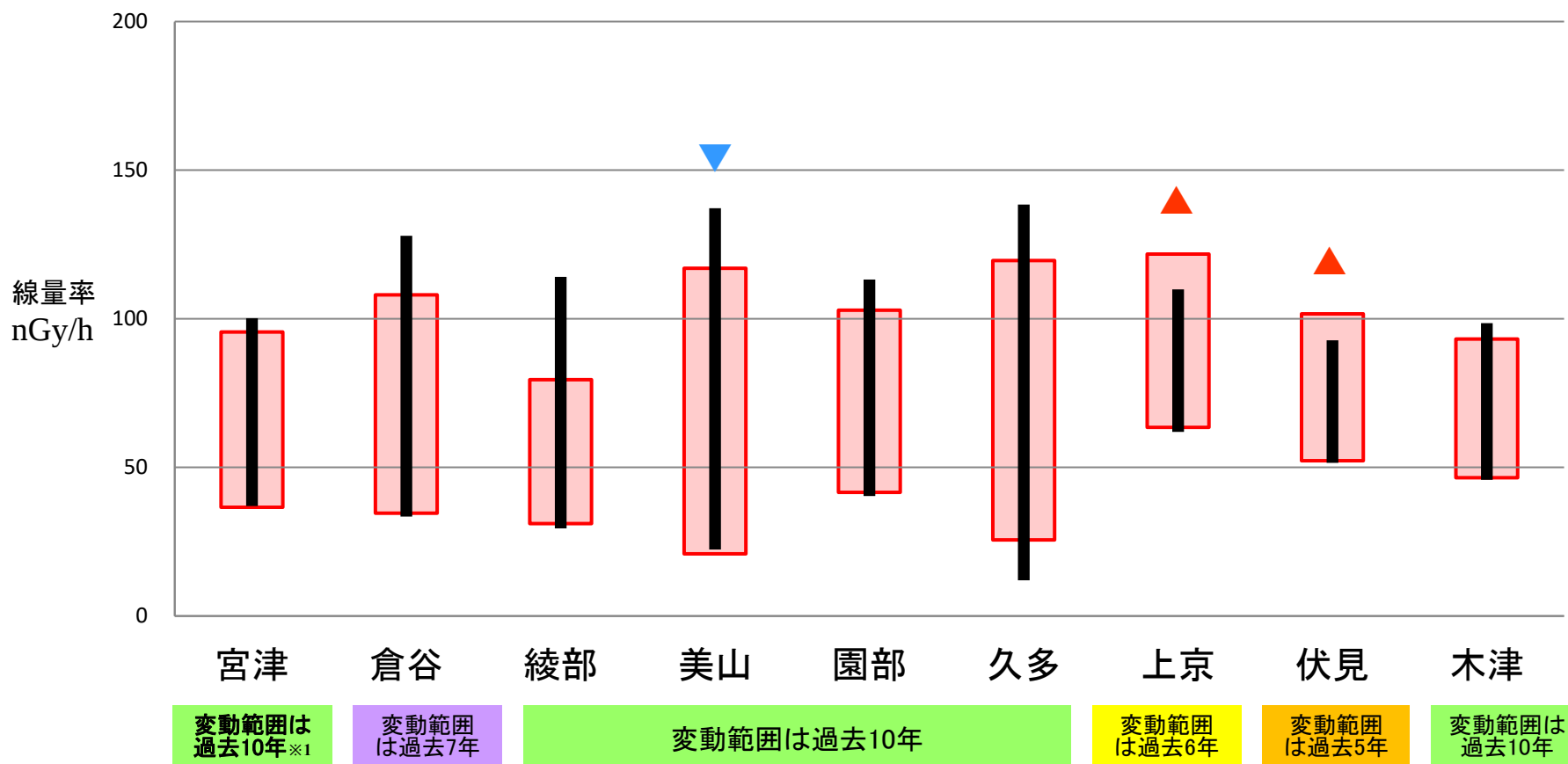
府独自設置局



赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大～最小。
 三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

空間放射線 空気吸収線量率 測定結果（令和7年度）／水準

水準調査局



赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 過去の変動範囲の最大～最小。

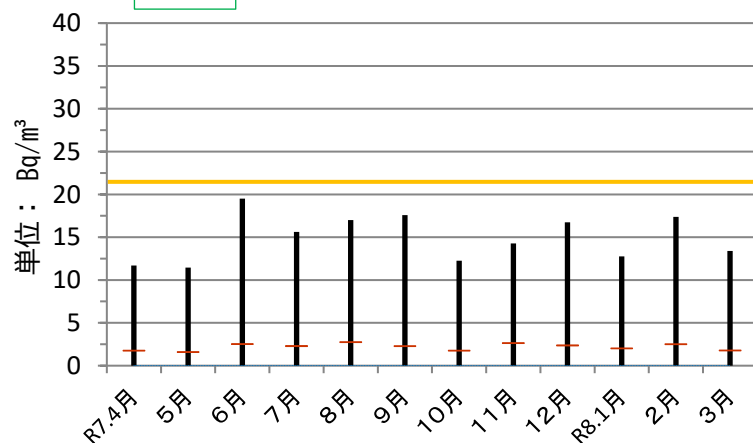
三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。

浮遊じん中の全 α 、全 β 放射能 測定結果

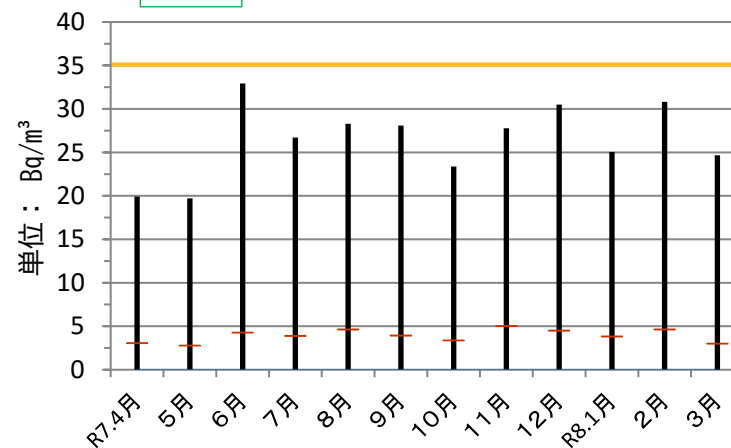
- 吉坂測定所及び塩汲測定所で過去2年間の変動範囲内でした。

浮遊じん中の放射能測定結果（令和7年度）

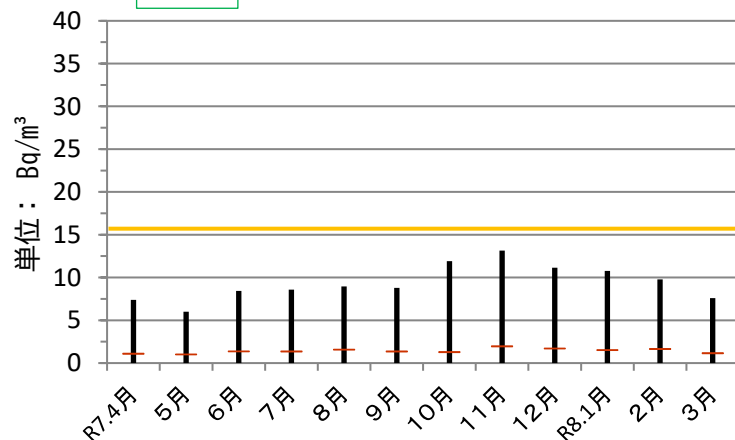
吉坂

浮遊じん中の全 α 放射能

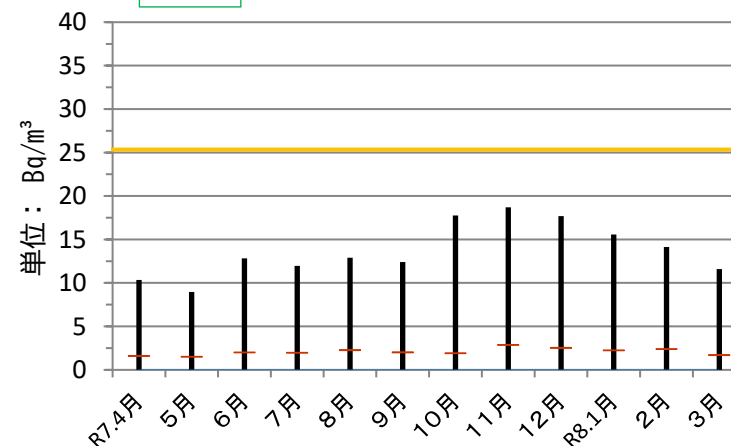
吉坂

浮遊じん中の全 β 放射能

塩汲

浮遊じん中の全 α 放射能

塩汲

浮遊じん中の全 β 放射能

横棒(—): 月平均値。 縦棒(|): 各月の最大～最小。
 三角(▲)印: 変動範囲を超過。

橙線(—): 変動範囲 (過去2年間の最大)。

令和7年度（令和7年4月～令和8年3月）

環境放射線測定結果

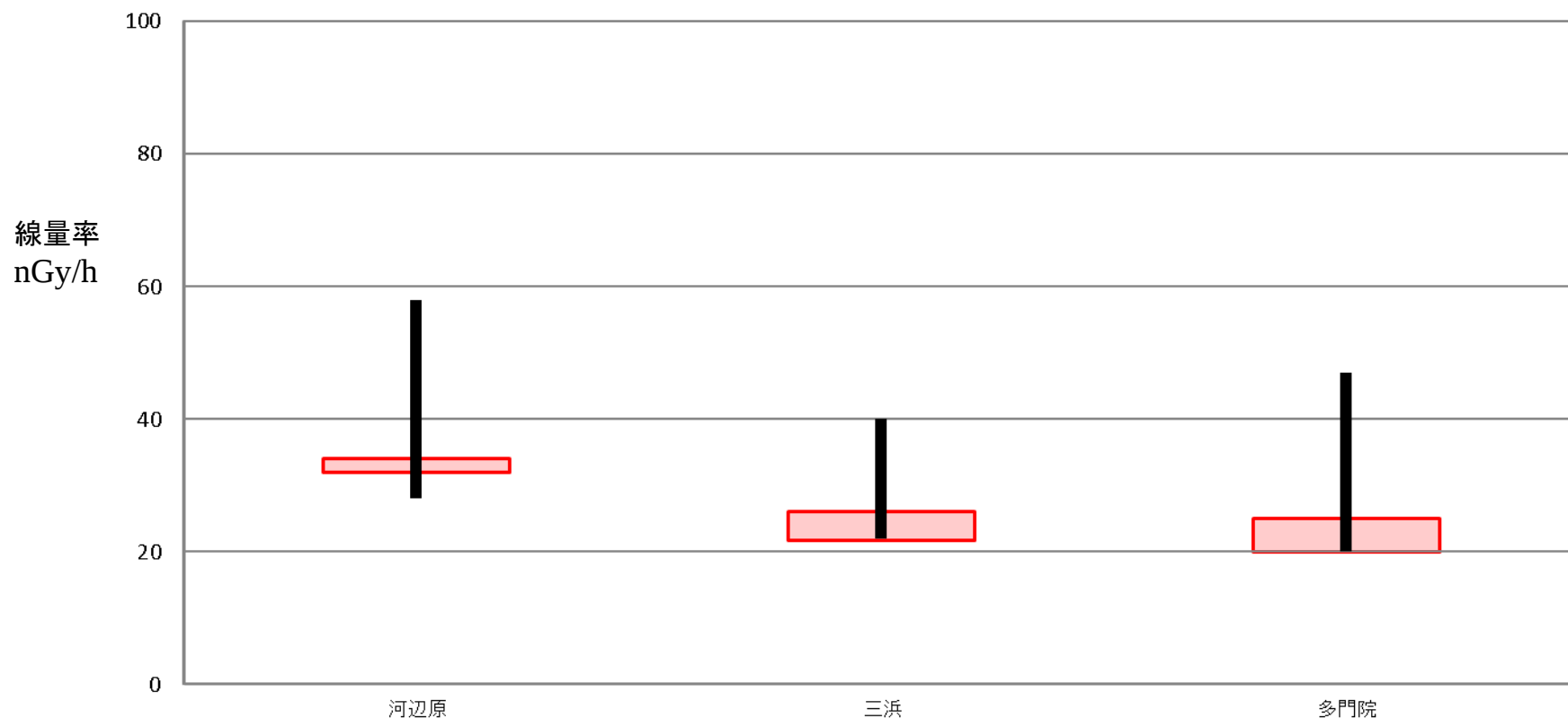
- ① 測定所での監視
 - 1. 空間放射線空気吸収線量率
 - 2. 浮遊じん中の全 α ・ β 放射能
- ② 環境放射能測定車、環境放射線調査車による監視
 - 1. 環境放射能測定車による測定
 - 2. 環境放射線調査車による測定
- ③ ガンマ線放出核種分析、トリチウム、ストロンチウム分析結果

環境放射能測定車による測定結果

- 空間放射線空気吸収線量率
→可搬型モニタリングポストで測定。三浜で過去の変動をわずかに下回り、他地点は過去の変動の範囲内。
- 空間 γ 線スペクトル
→人工核種は、Cs-137が三浜で1回、多門院で2回検出された。その他は全て計数誤差の3倍以下。

(資料3-2 p.13)

環境放射能測定車 線量率測定結果



赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)。
三角(▲、▼)印: 変動範囲を超過。 可搬型モニタリングポストで測定。

環境放射線調査車による測定結果

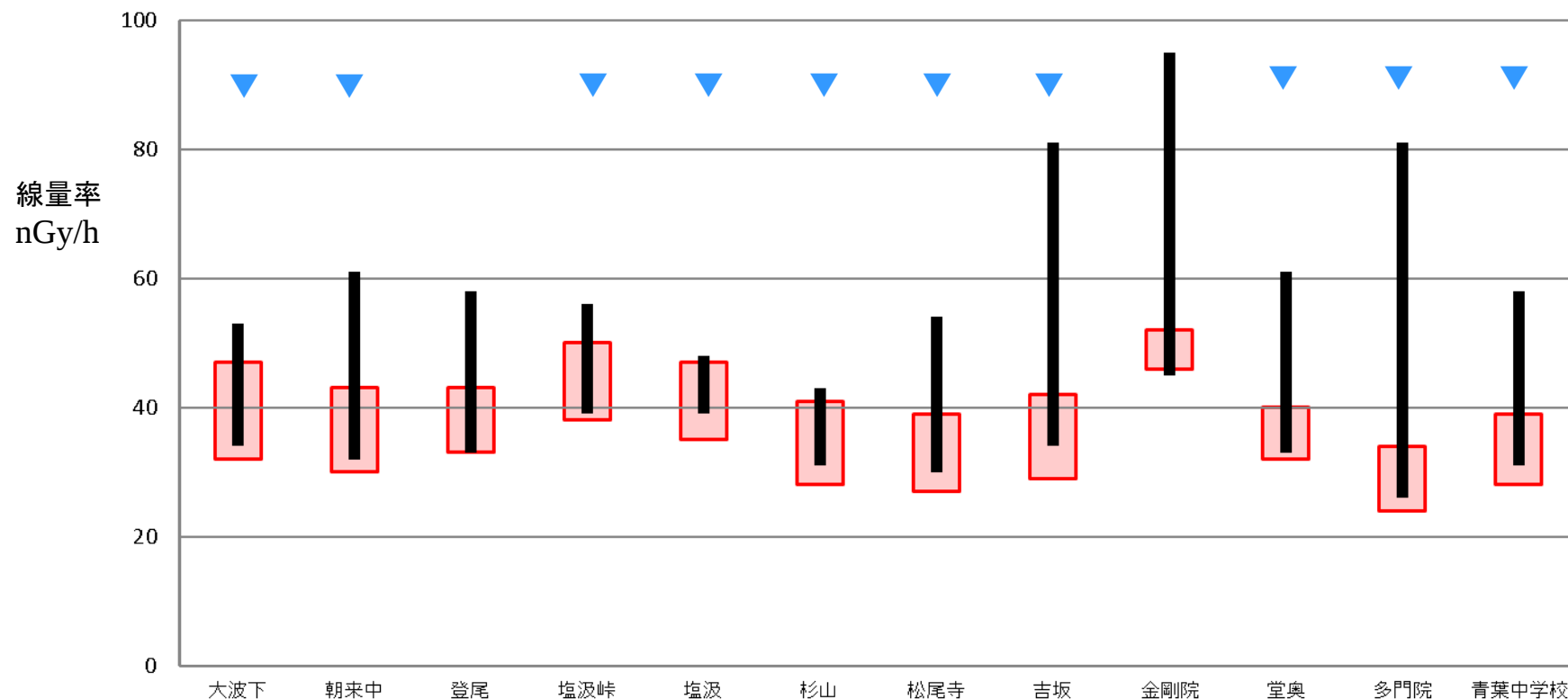
- 令和6年度より全ルートで使用機材変更
(過去の変動範囲 = 令和6年度1年間の変動範囲)
- 定点での測定
→ 全ルート・56地点で過去の変動範囲を若干超過・下回り
- ルート走行中の線量率の変化。
→ 従来と同様の傾向

※調査車は空間放射線空気吸収線量率のみ測定

(資料3-2 p.14-17)

環境放射線調査車 線量率測定結果

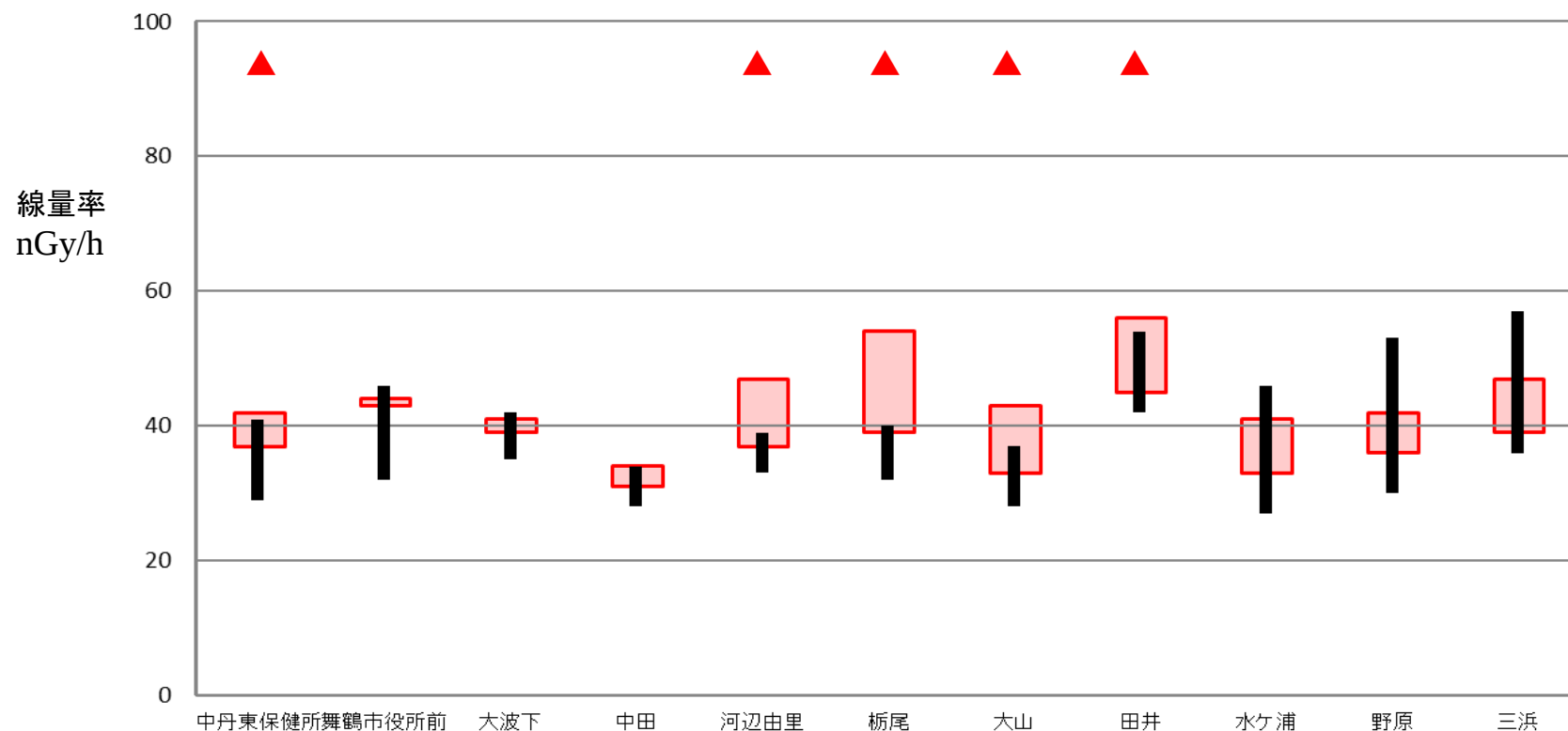
東舞鶴地域 ルート1



赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去1年間の最大～最小)
 三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果

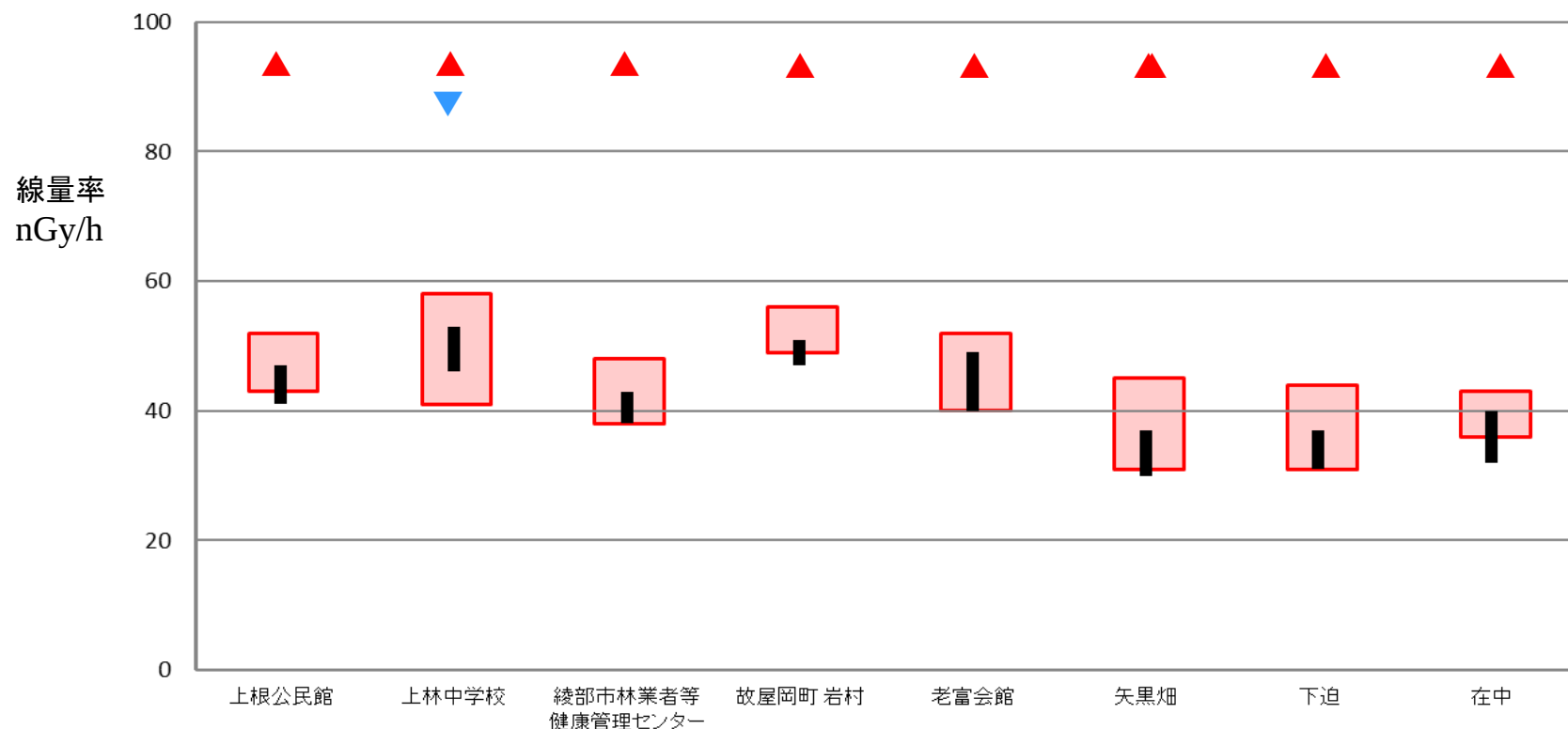
東舞鶴地域 ルート2



赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去1年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果

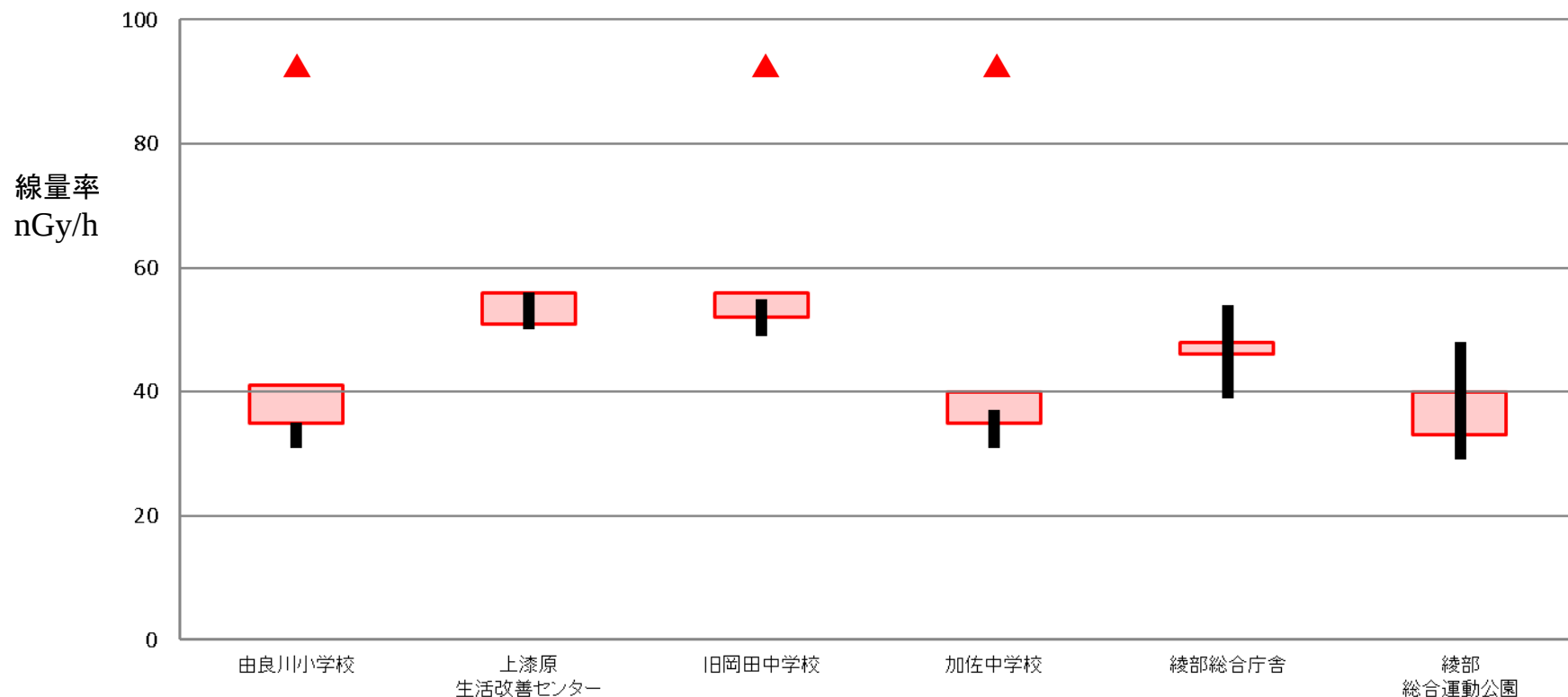
綾部老富地区 ルート3



赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去1年間の最大～最小)
 三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

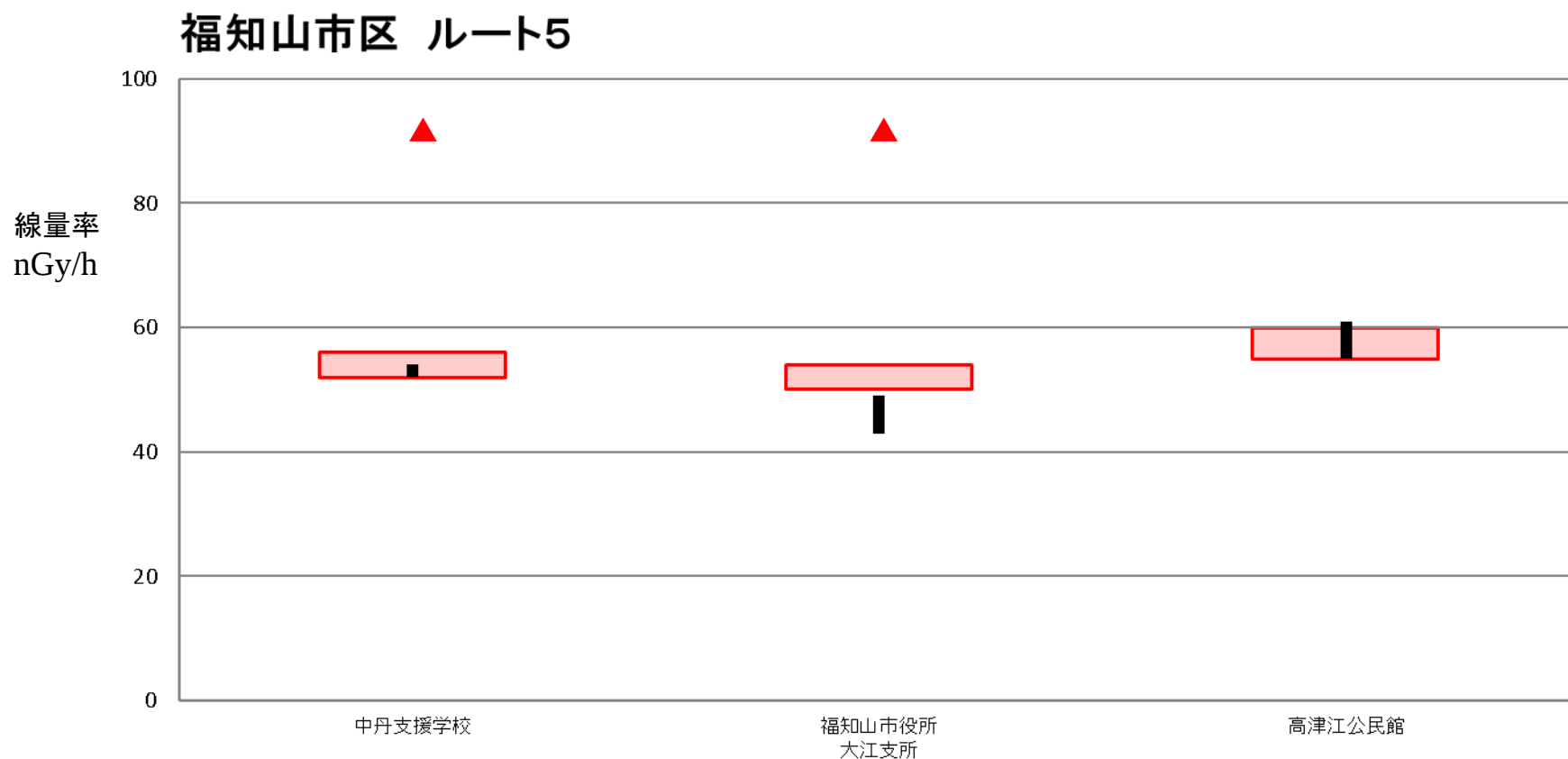
環境放射線調査車 線量率測定結果

綾部・西舞鶴地域 ルート4



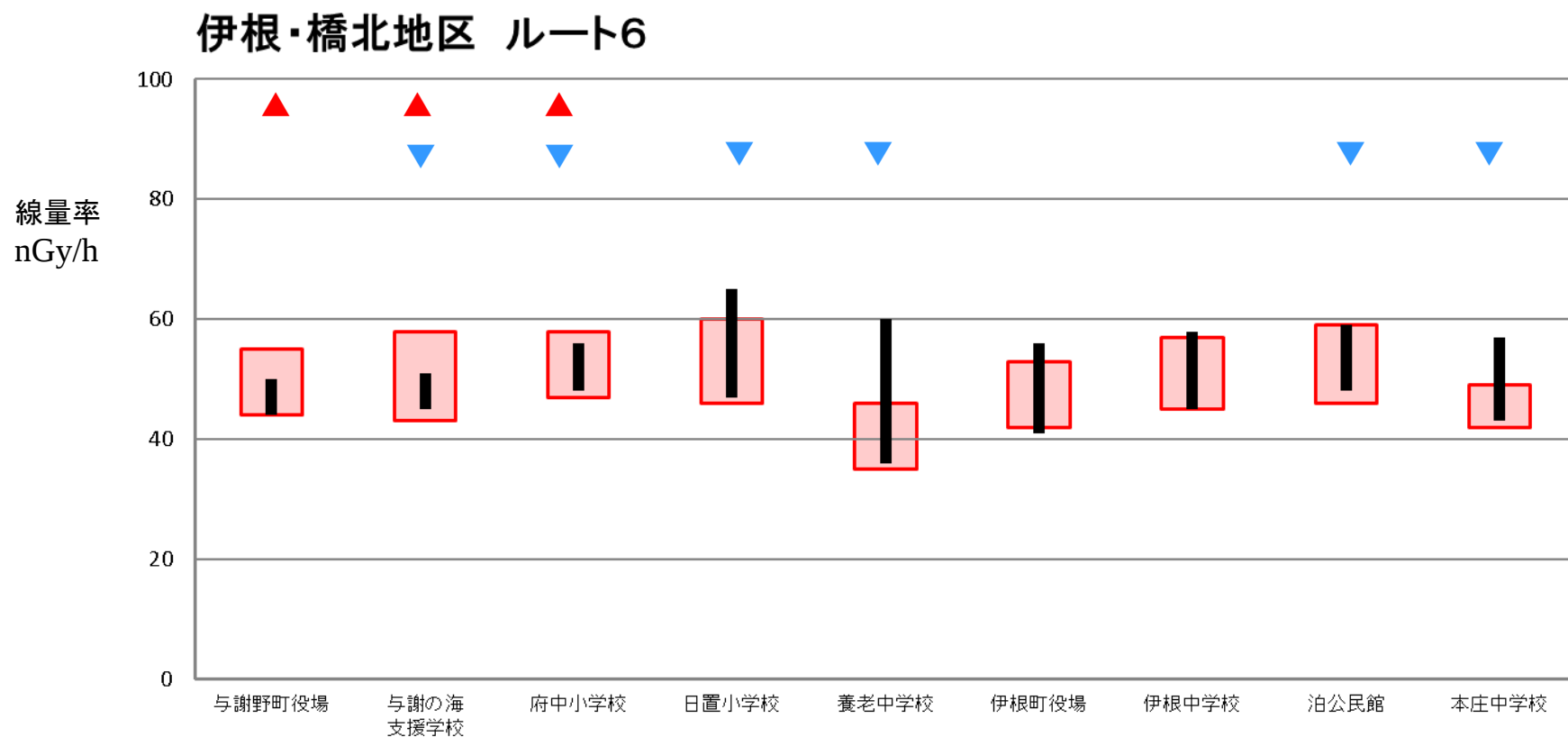
赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去1年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果



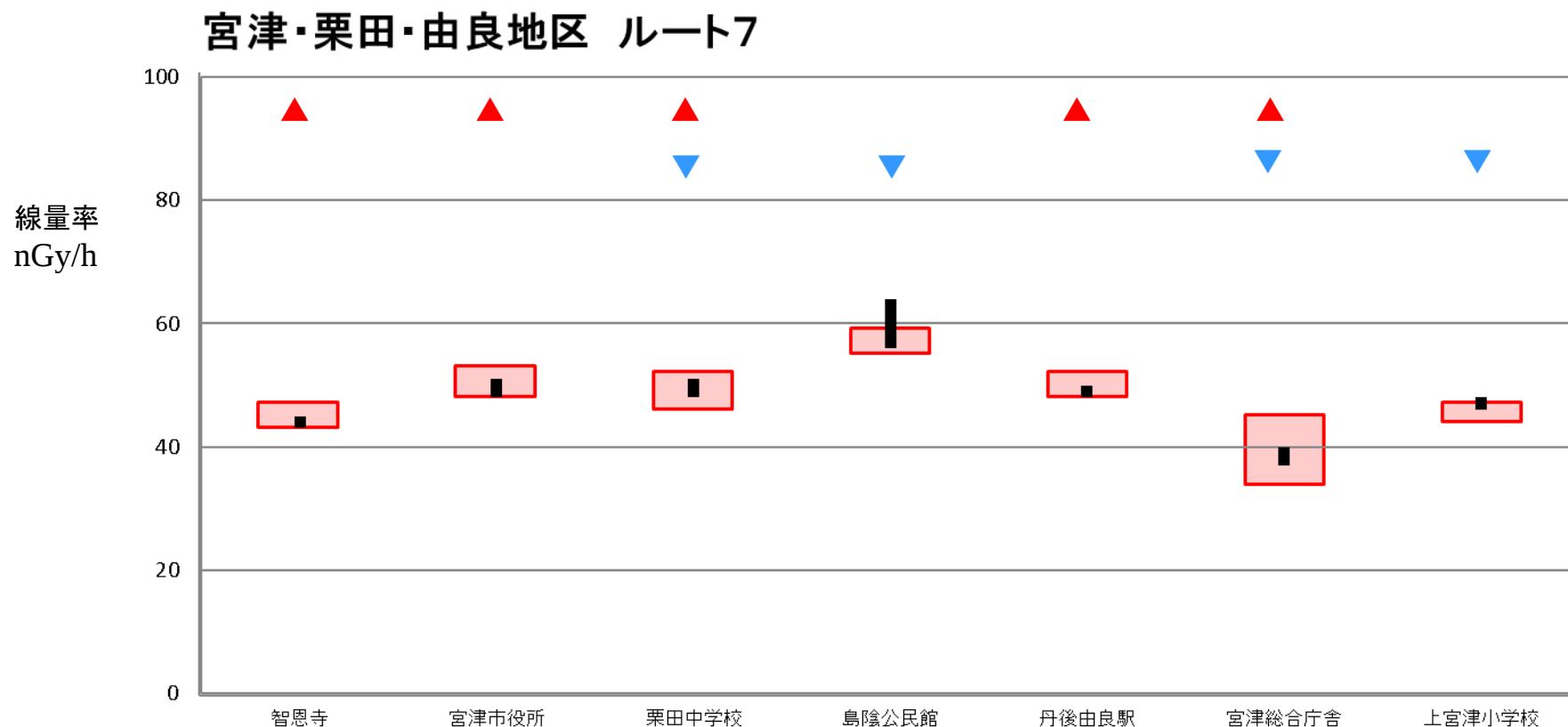
赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去1年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果



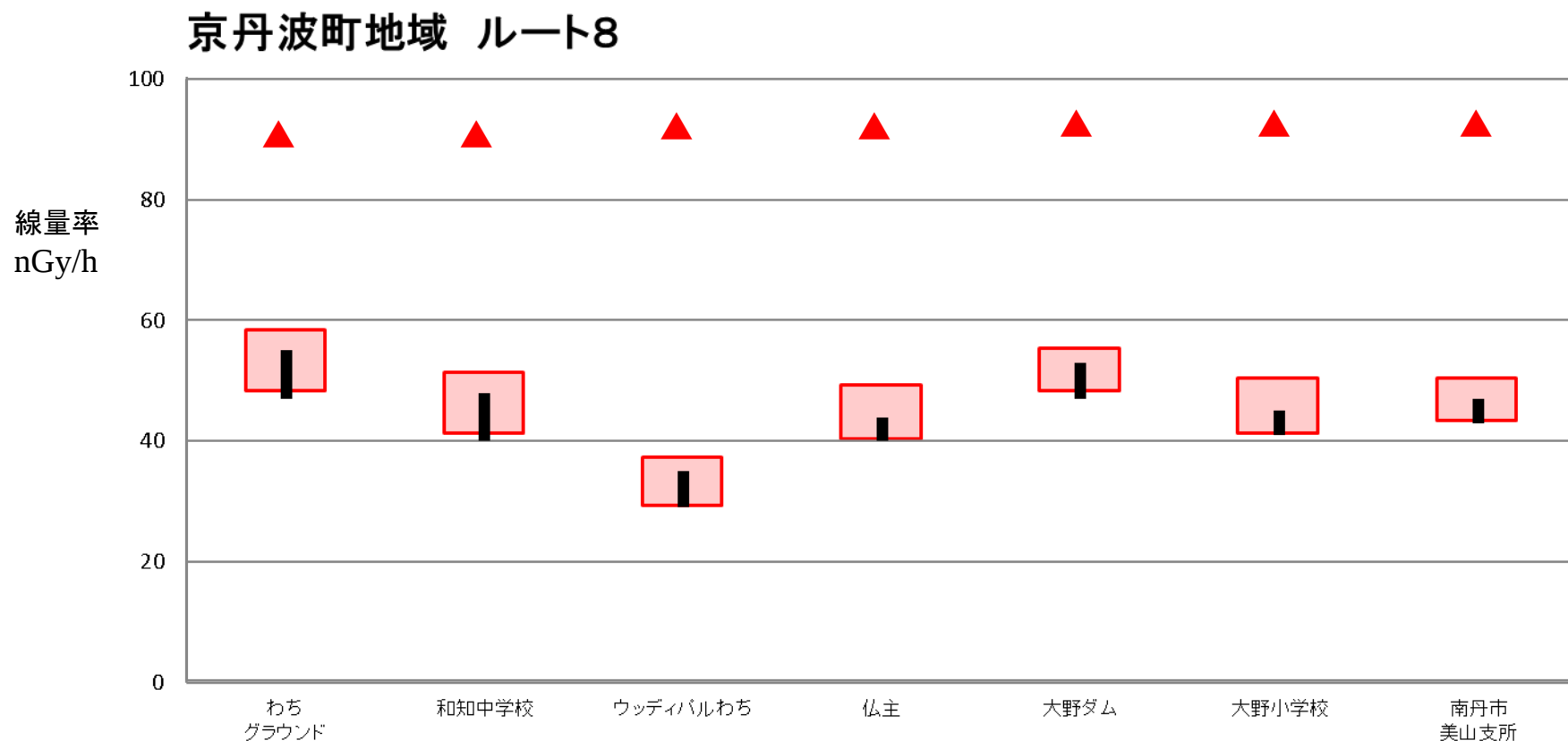
赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去1年間の最大～最小)
 三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果



赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去1年間の最大～最小)
 三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

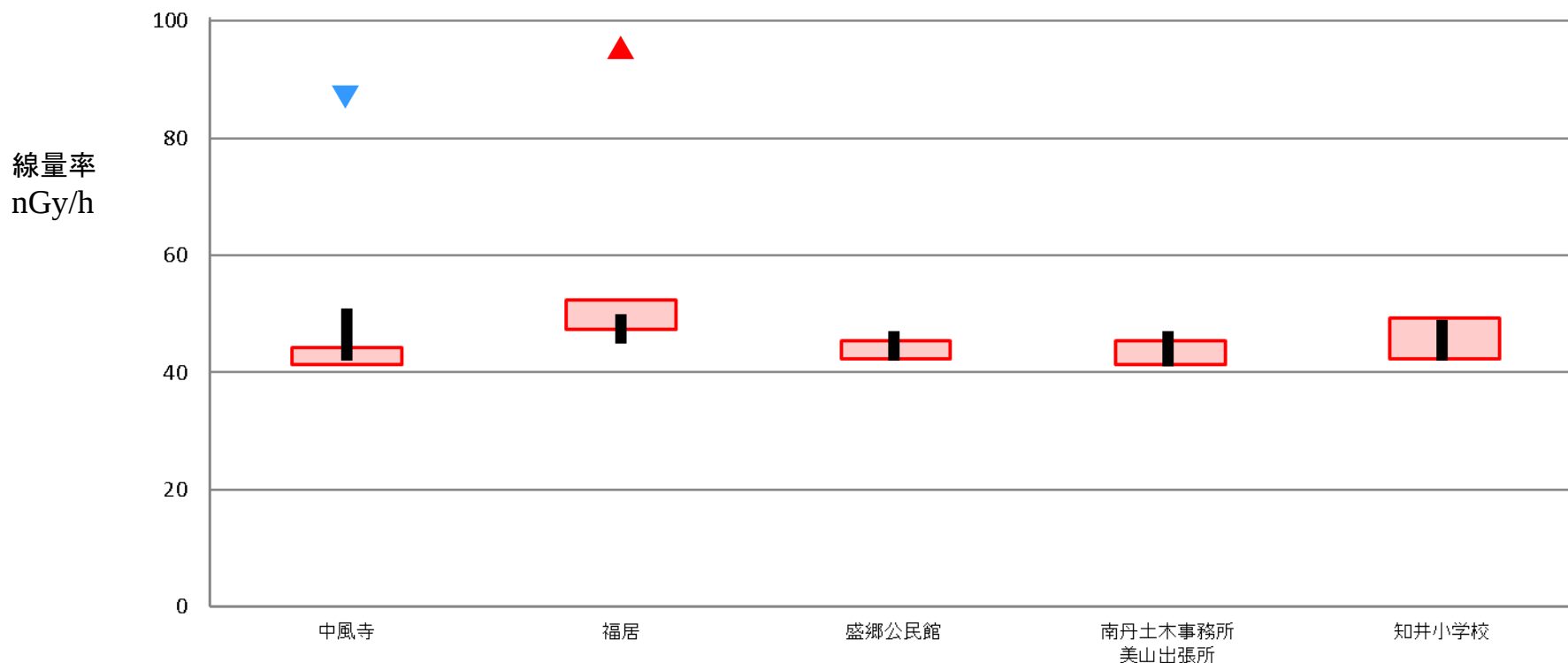
環境放射線調査車 線量率測定結果



赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去10年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果

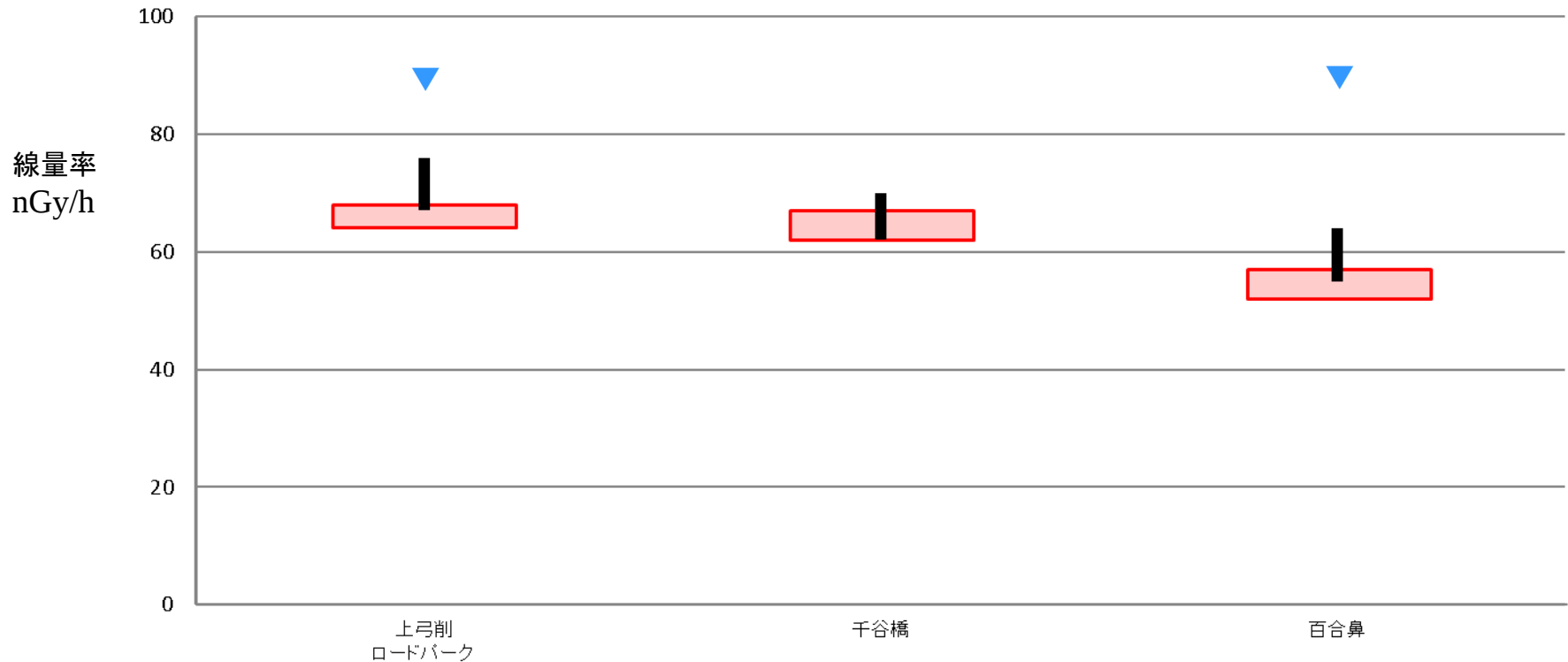
南丹市美山町地域 ルート9



赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去1年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過

環境放射線調査車 線量率測定結果

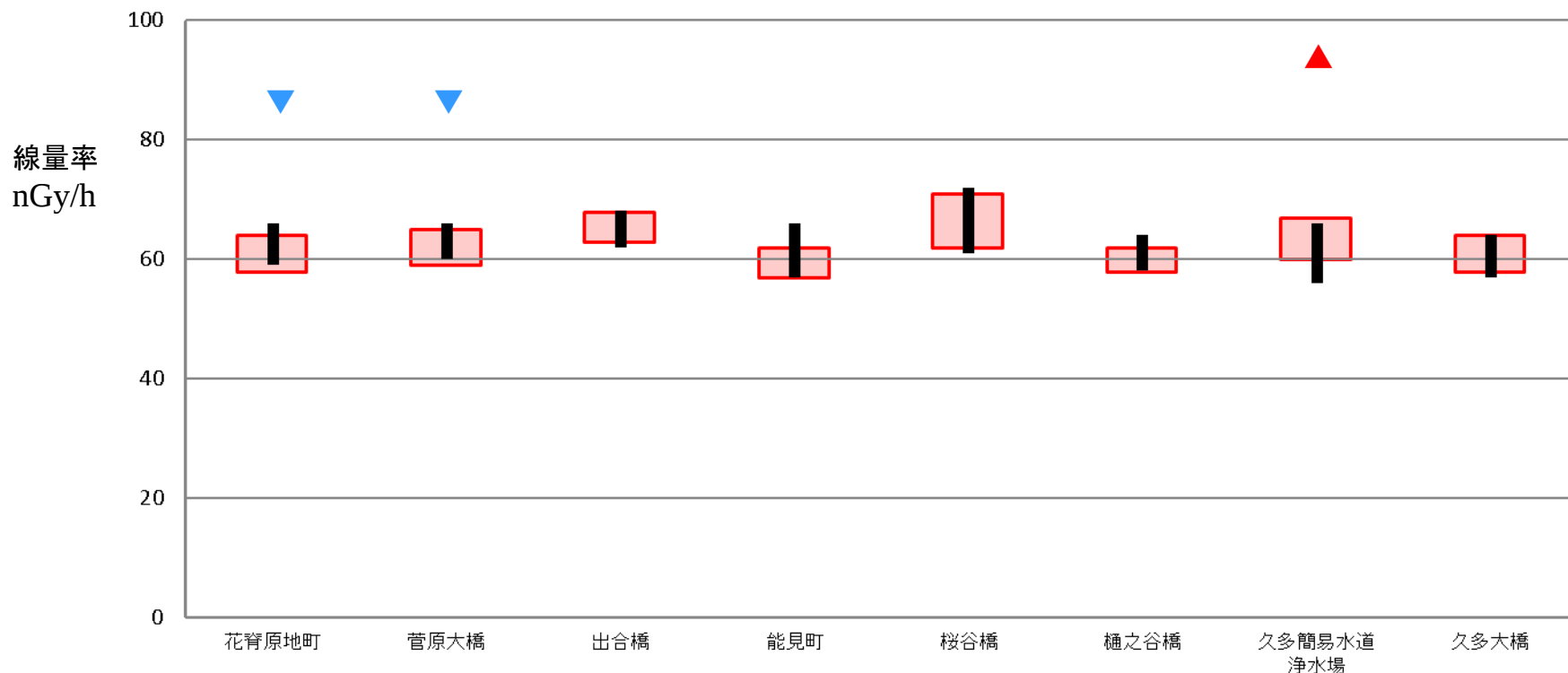
京都市上弓削町地域 ルート10



赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去1年間の最大～最小)
三角形(▲、▼): 変動範囲を超過 過去3年間はNaIシンチレーションサーベイメータで測定。

環境放射線調査車 線量率測定結果

広河原・久多地域 ルート11



赤長方形(□): 令和7年度の測定値の最大～最小。縦棒(|): 変動範囲(過去1年間の最大～最小)
 三角形(▲、▼): 変動範囲を超過 過去3年間はNaIシンチレーションサーベイメータで測定。

令和 7 年度（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月）

環境放射線測定結果

- ① 測定所での監視
 - 1. 空間放射線空気吸収線量率
 - 2. 浮遊じん中の全 $\alpha \cdot \beta$ 放射能
- ② 環境放射能測定車、環境放射線調査車での監視
 - 1. 環境放射能測定車による測定
 - 2. 環境放射線調査車による測定
- ③ ガンマ線放出核種分析、トリチウム分析、ストロンチウム分析結果

ガンマ線放出核種分析結果

➤ 馬鈴薯

→ 測定開始以来初めてCs-137を検出。

➤ 陸土、玄米、生椎茸、梅、よもぎ、めばる (かさご)、あじ、うまづらはぎ、まいわし、海 水、海底沈積物

→ 過去と同程度のCs-137を検出。

➤ その他

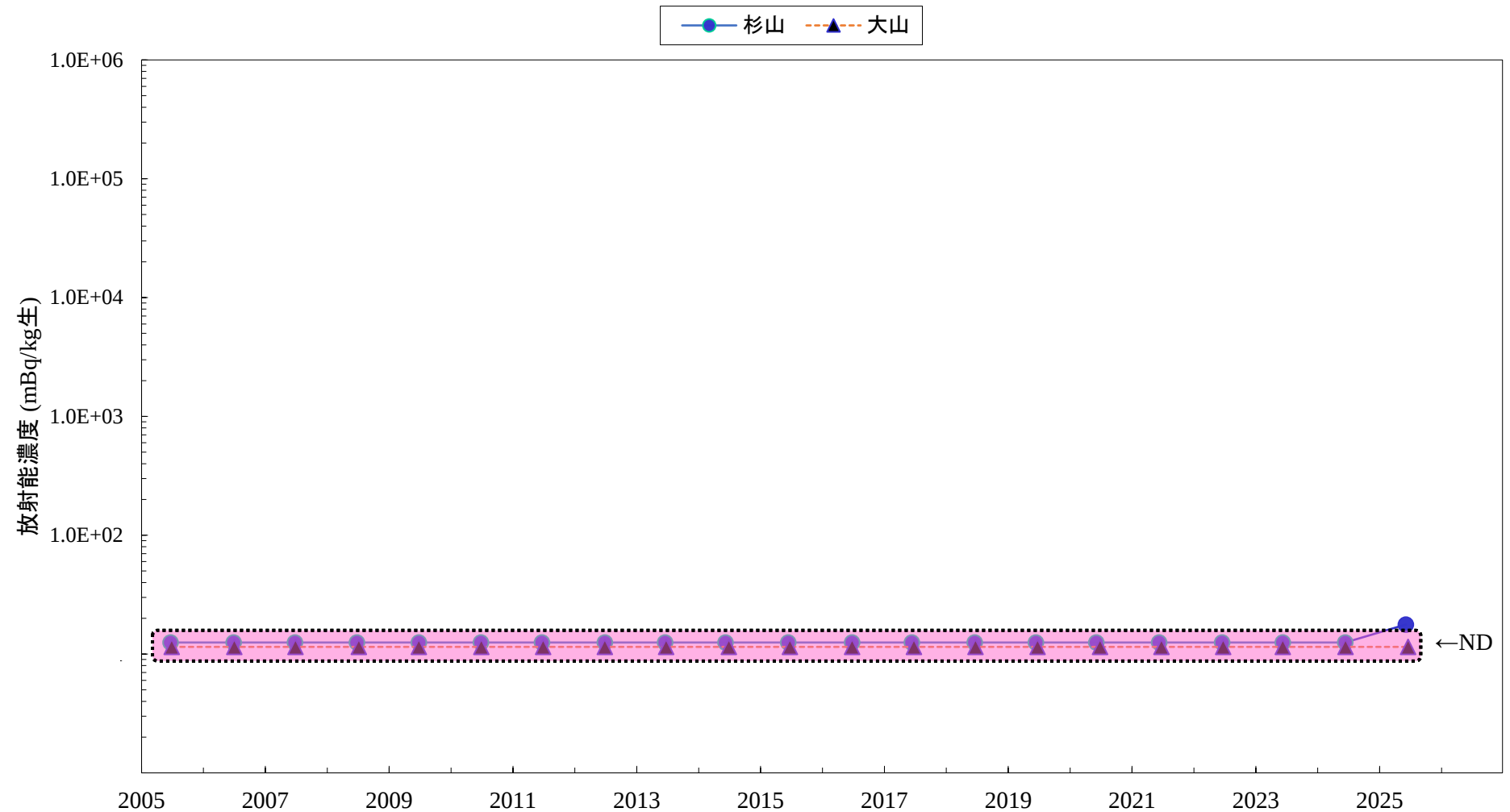
→ 人工放射性核種は計数誤差の
3倍以下。

(資料3-2 p.18-27)

ガンマ線放出核種分析結果

馬鈴薯中のCs-137の経年変化

資料3-2 p. 23, 24



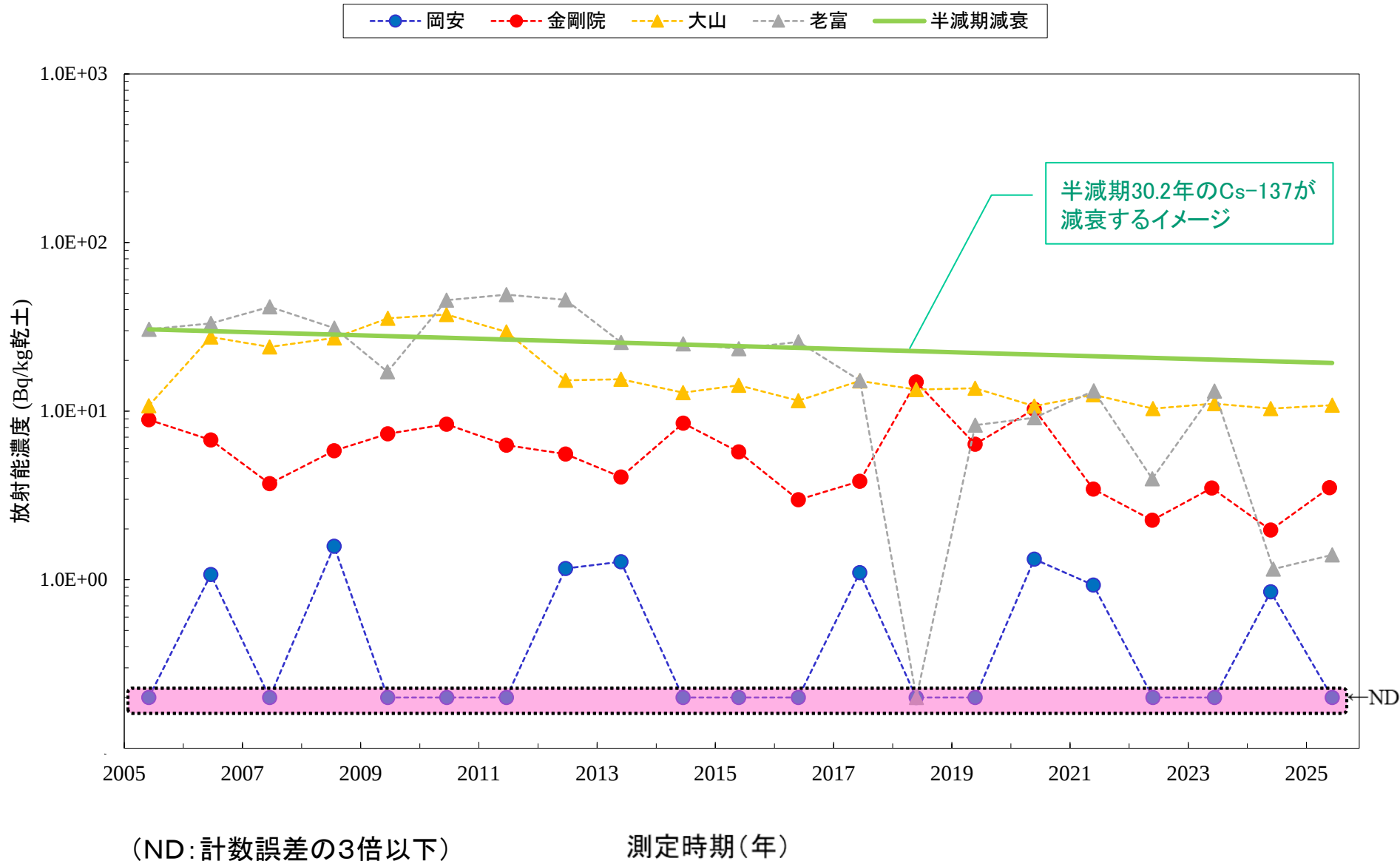
(ND: 計数誤差の3倍以下)

測定時期 (年)

ガンマ線放出核種分析結果

陸土中のCs-137の経年変化

資料3-2 p. 22



ガンマ線放出核種分析結果

陸土中のCs-137の地点別濃度（5年周期地点）

資料3-2 p. 22

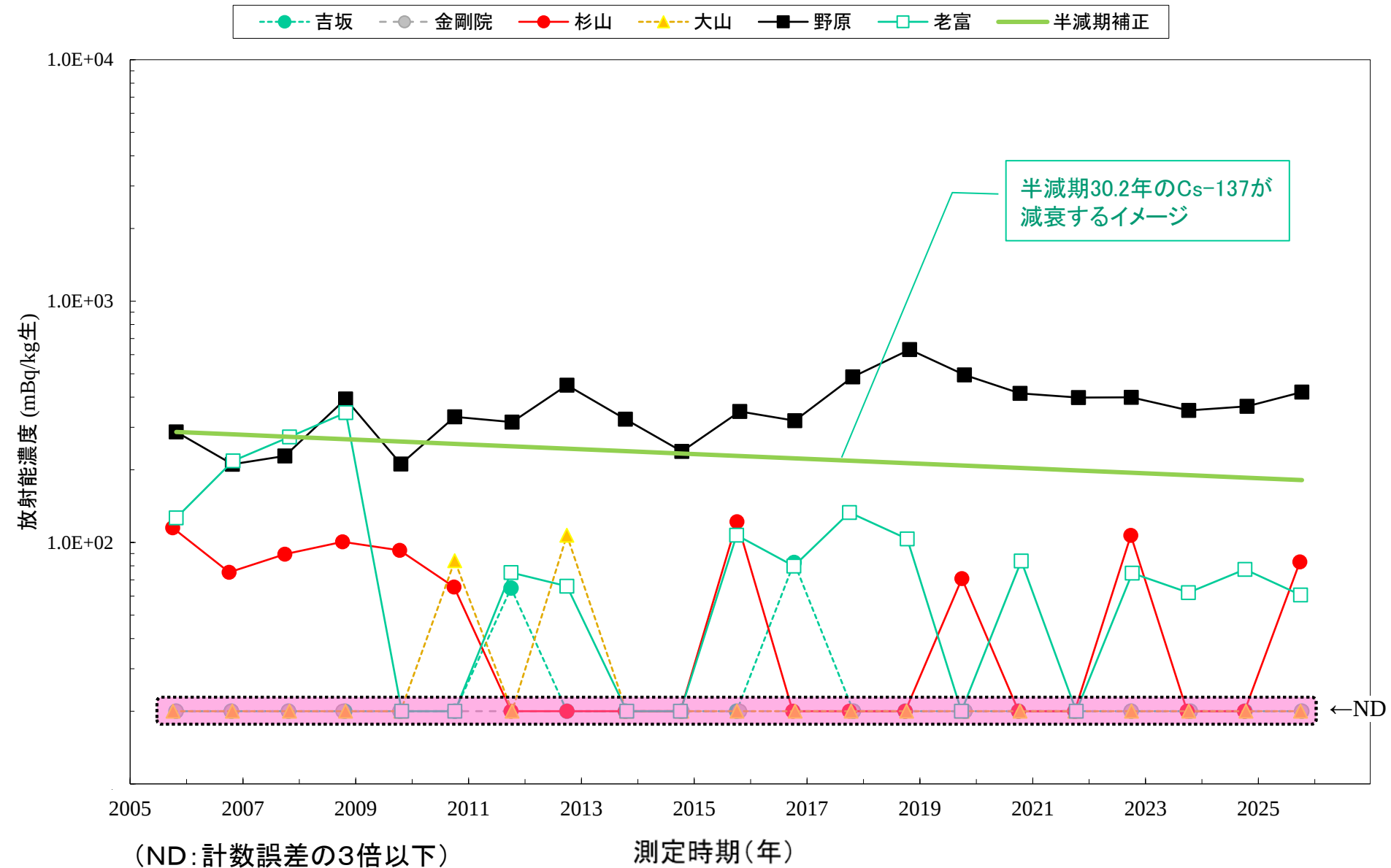
単位：Bq/kg乾土

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
広河原	1.4 ± 0.23					ND	
倉梯Ⅱ	2.8 ± 0.25					3.2 ± 0.25	
知井	ND					ND	
養老	ND					ND	
塩汲		3.5 ± 0.29					2.1 ± 0.28
岡安Ⅱ		4.0 ± 0.26					2.6 ± 0.24
上司		ND					1.2 ± 0.24
老富Ⅱ		9.5 ± 0.34					9.8 ± 0.33
吉坂Ⅱ			2.1 ± 0.23				
八津合			1.8 ± 0.27				
島			ND				
地頭				6.1 ± 0.33			
相生				1.7 ± 0.22			
上杉				2.3 ± 0.26			
日出				1.6 ± 0.25			
本庄					1.8 ± 0.22		
三浜					ND		
神崎					ND		

注：測定値 $N \pm \Delta N$ において ΔN は計数誤差であり、 $N \leq 3 \times \Delta N$ のとき「検出限界以下」であるとし、「ND」で表している。

ガンマ線放出核種分析結果 玄米中のCs-137の経年変化

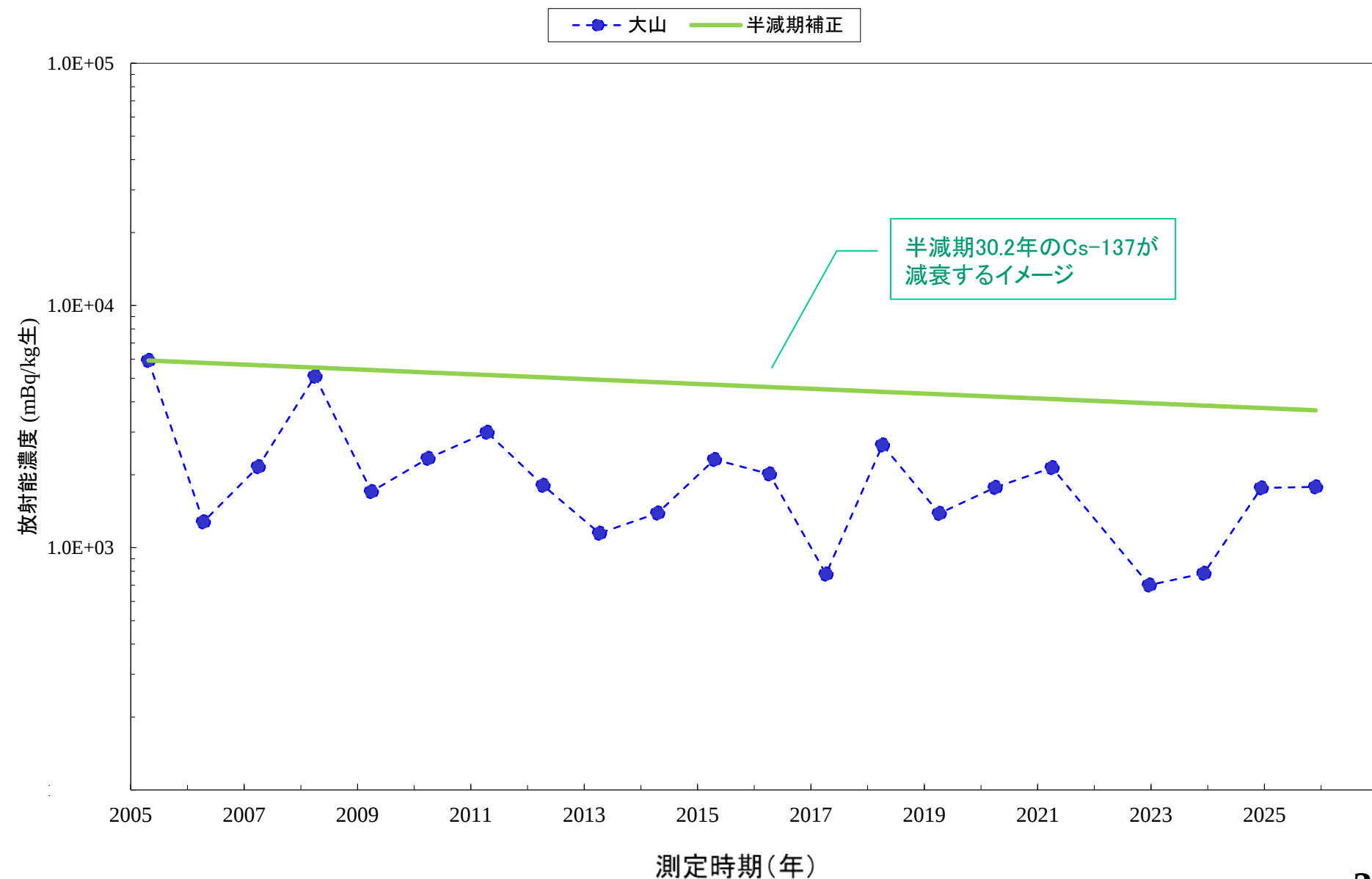
資料3-2 p. 23



ガンマ線放出核種分析結果

生椎茸中のCs-137の経年変化

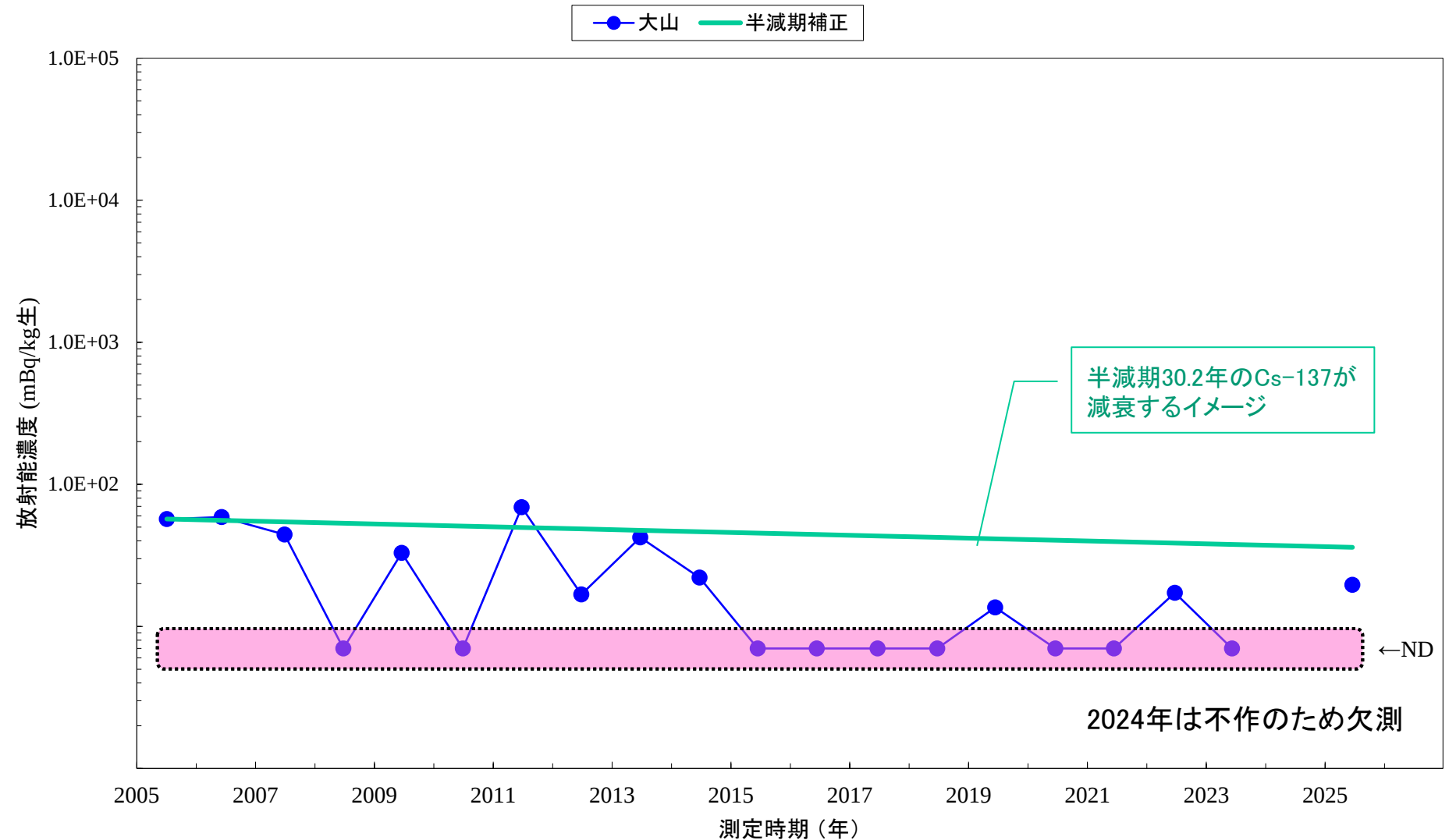
資料3-2 p. 23



ガンマ線放出核種分析結果

梅中のCs-137の経年変化

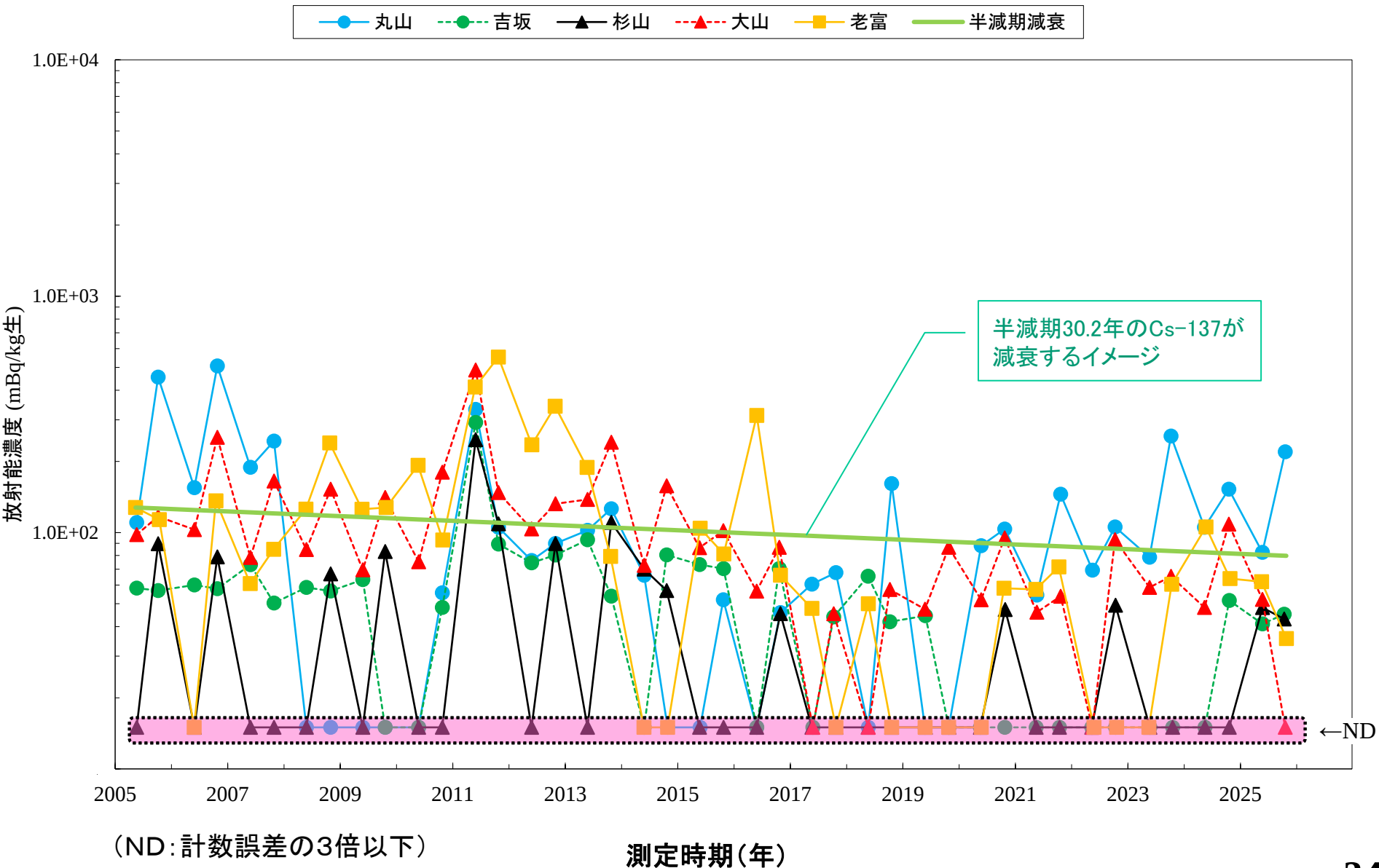
資料3-2 p. 24



(ND: 計数誤差の3倍以下)

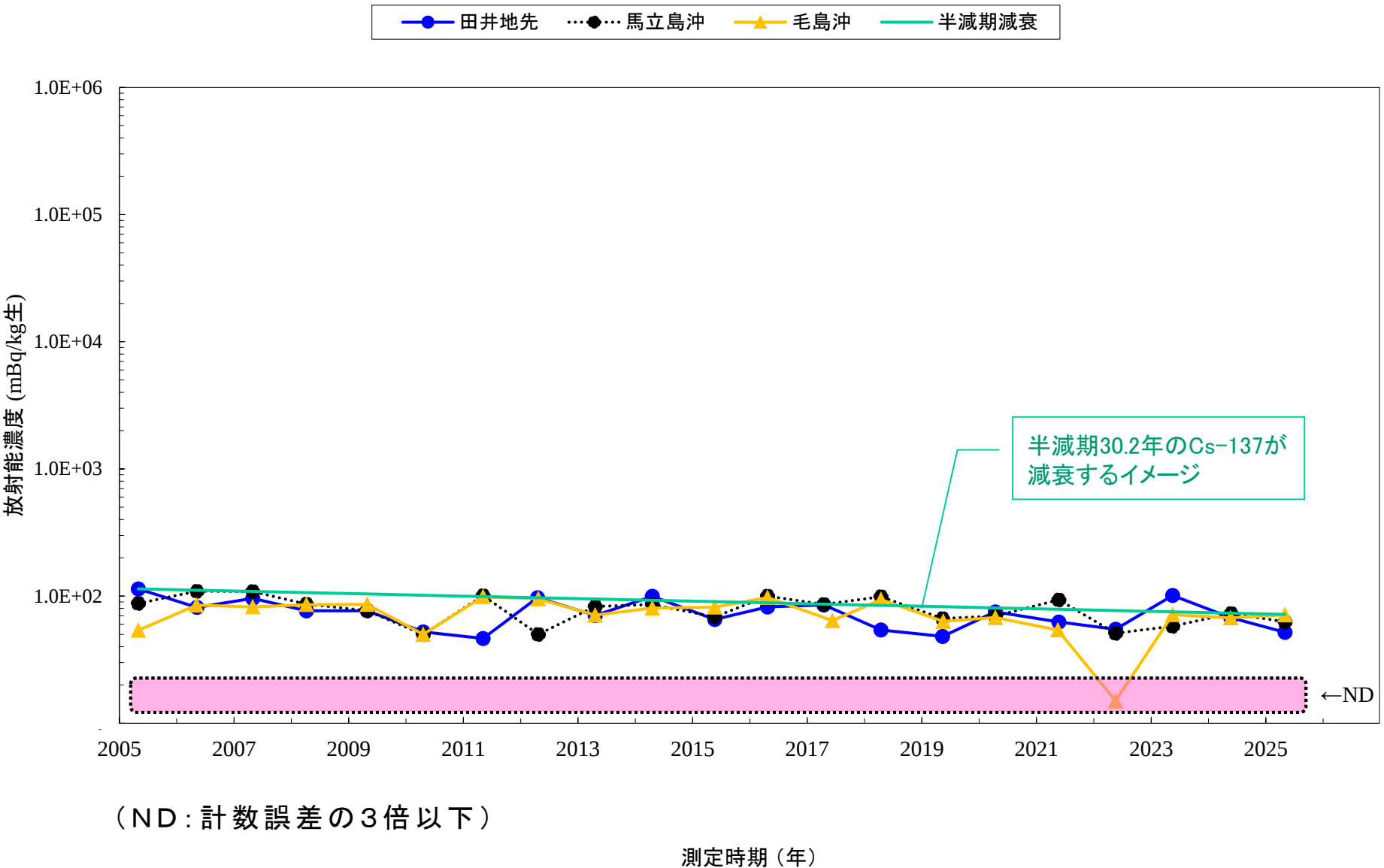
ガンマ線放出核種分析結果 よもぎ中のCs-137の経年変化

資料3-2 p. 24, 25



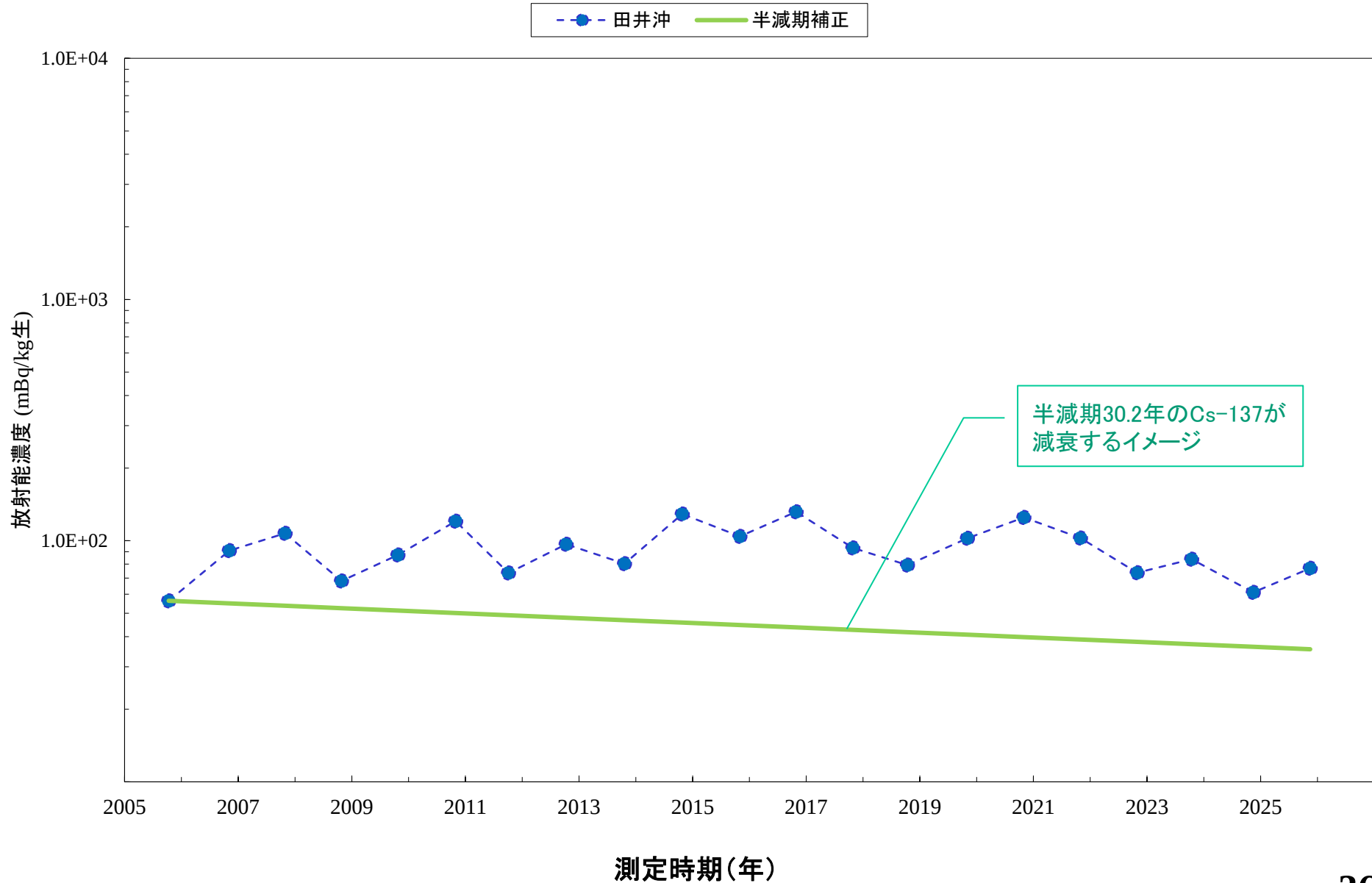
ガンマ線放出核種分析結果

めばる中のCs-137の経年変化



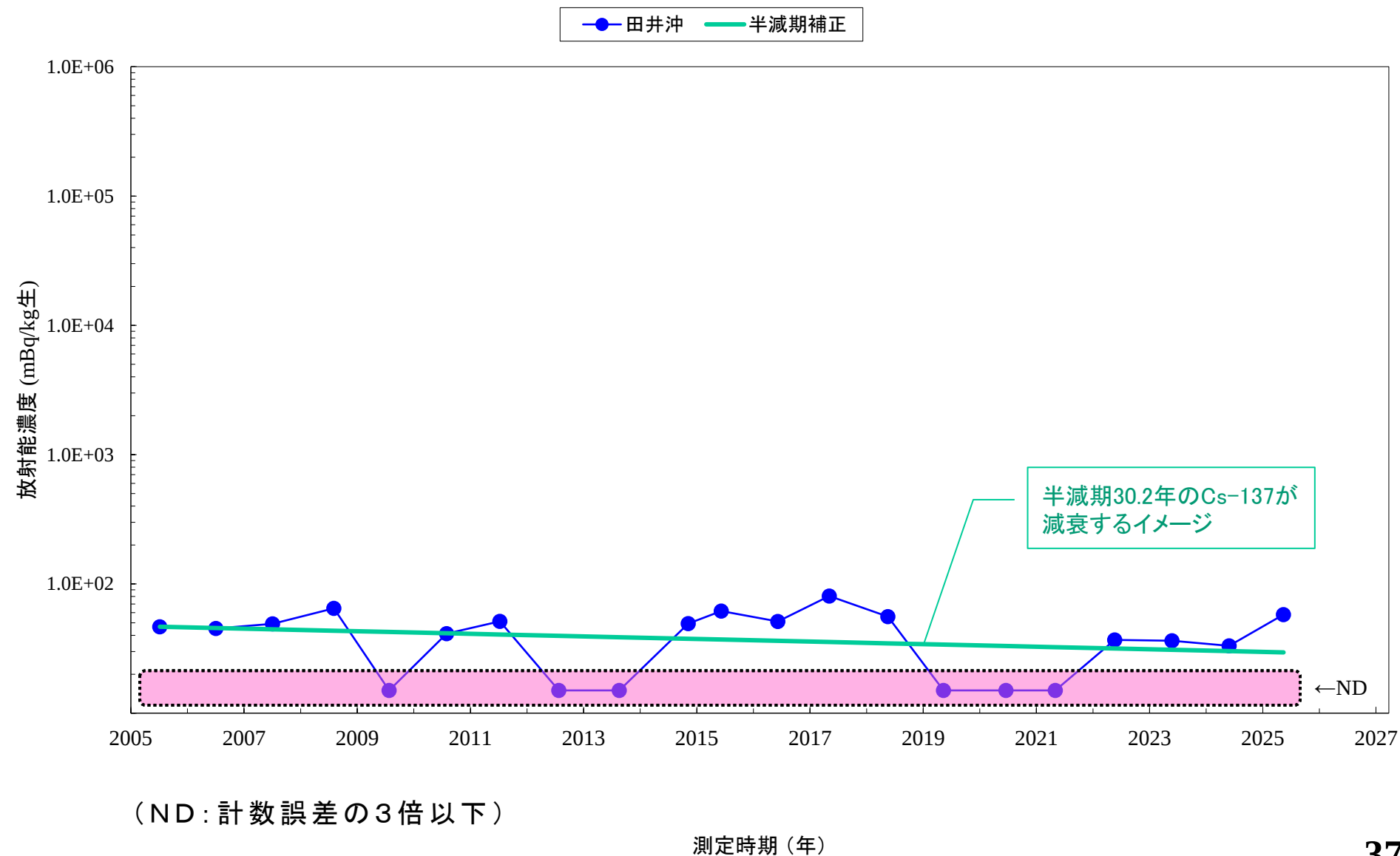
ガンマ線放出核種分析結果 あじ中のCs-137の経年変化

資料3-2 p. 26



ガンマ線放出核種分析結果

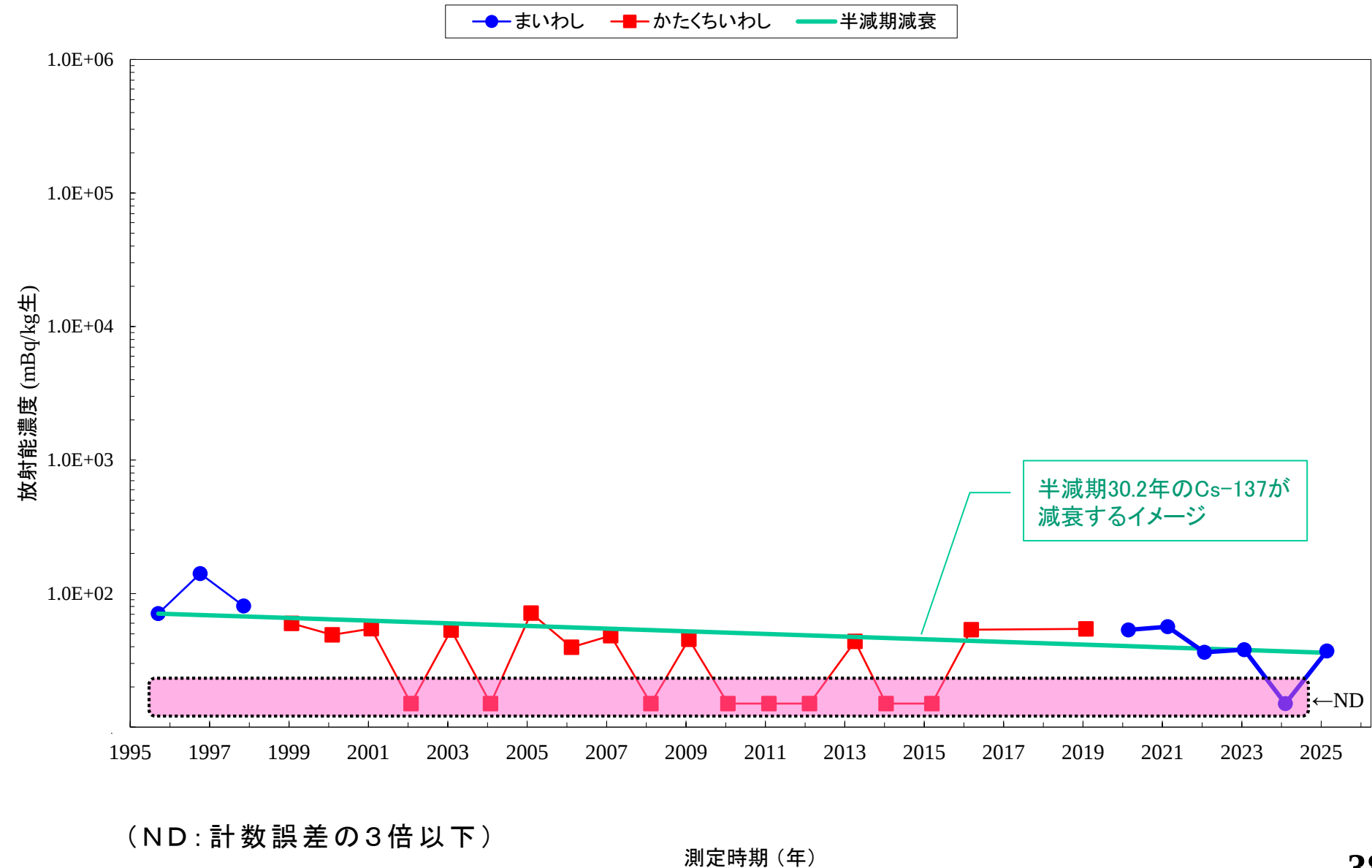
うまづらはぎ中のCs-137の経年変化



ガンマ線放出核種分析結果

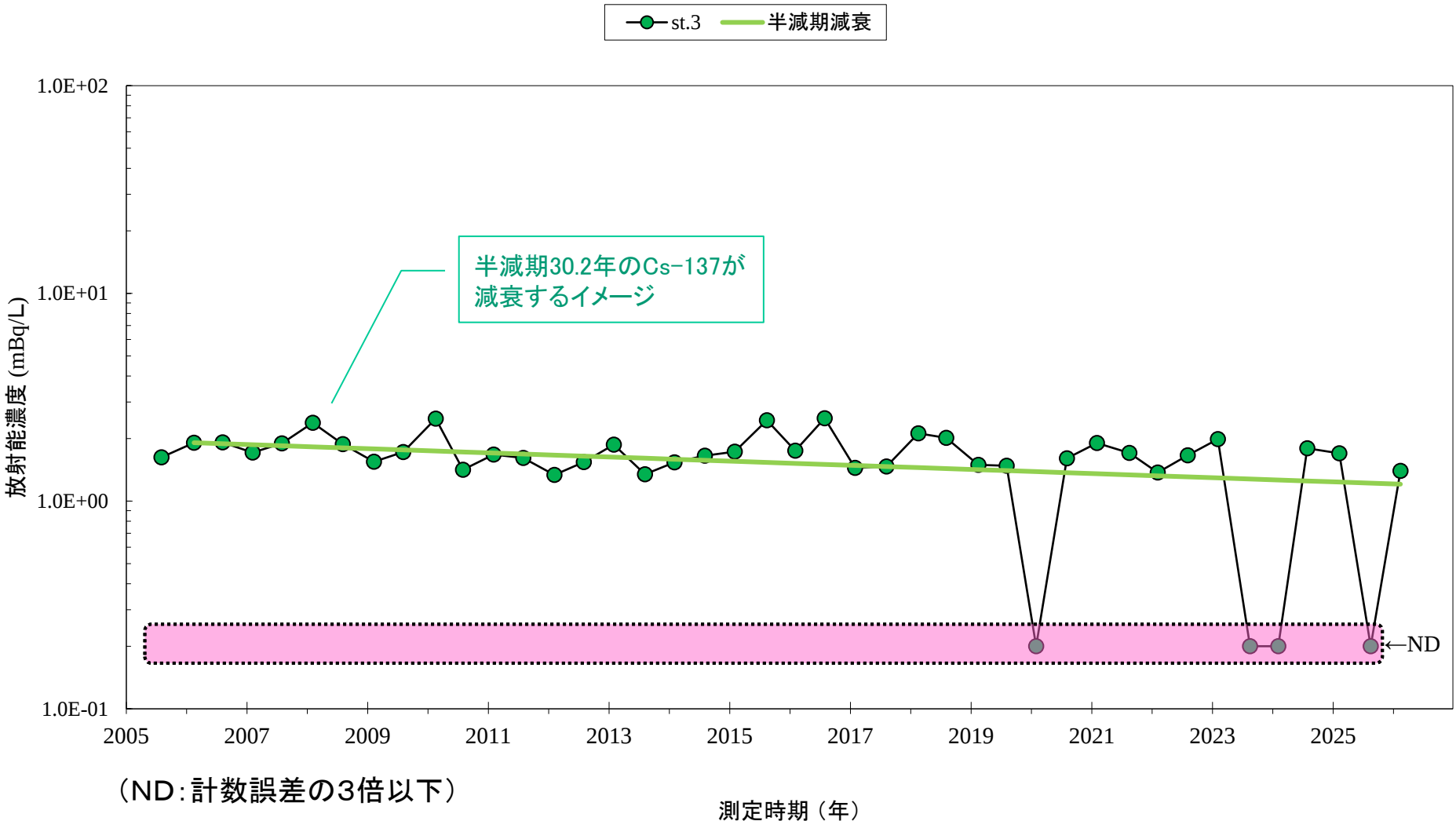
いわし類中のCs-137の経年変化

資料3-2 p. 26



海水中のCs-137の経年変化

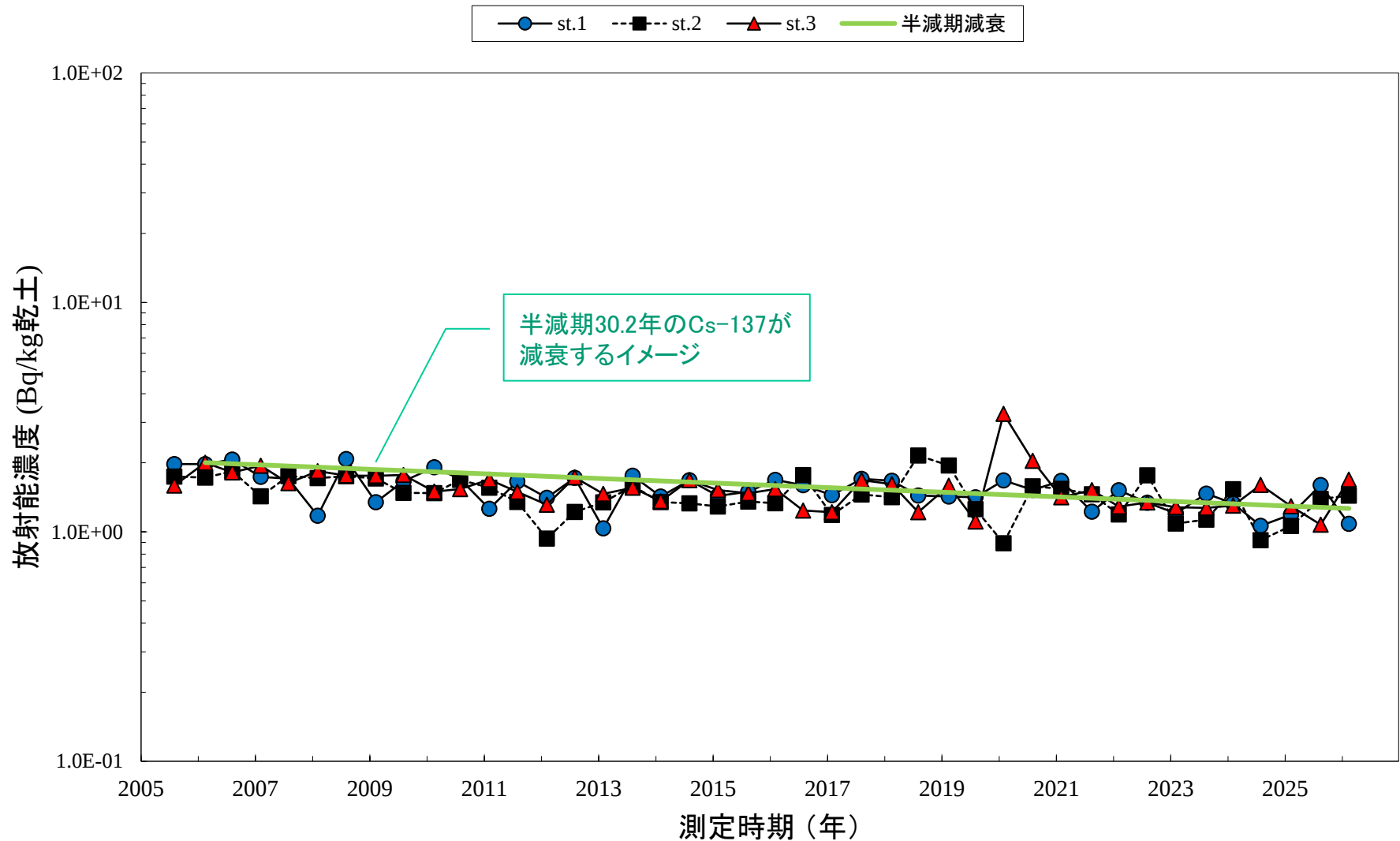
ガンマ線放出核種分析結果



ガンマ線放出核種分析結果

海底沈積物中のCs-137の経年変化

資料3-2 p. 26, 27



ガンマ線放出核種分析結果

- 放射性ガス状ヨウ素
すべての測定で計数誤差の3倍以下であった。

(資料3－2 p.28)

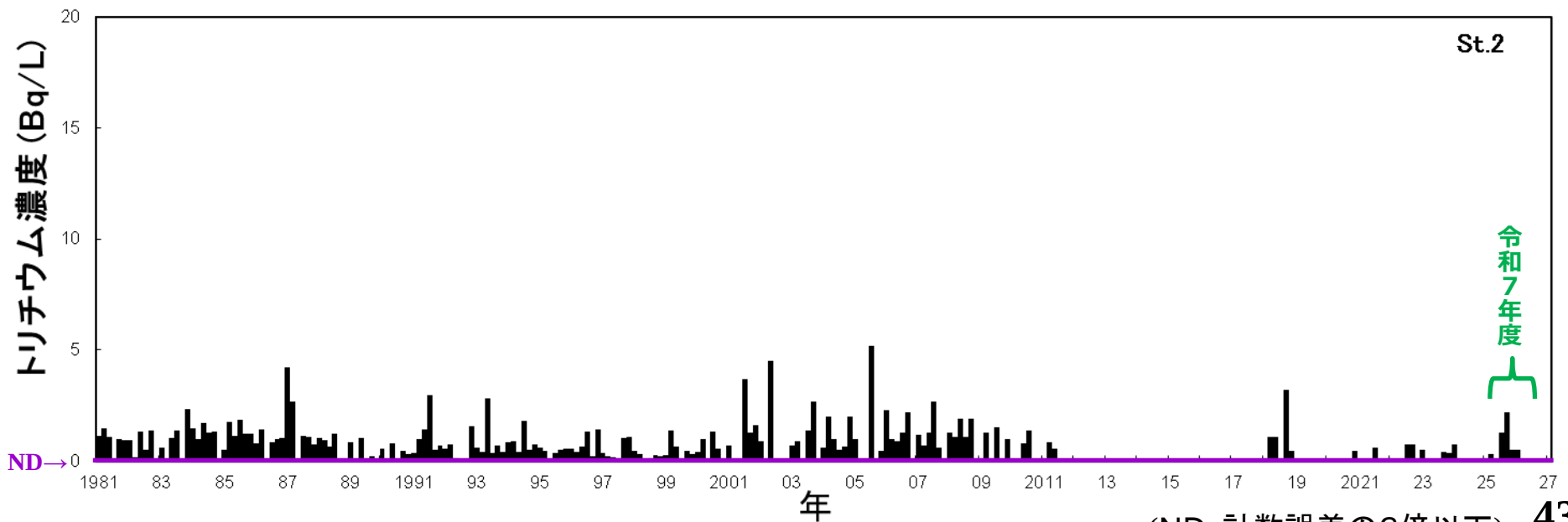
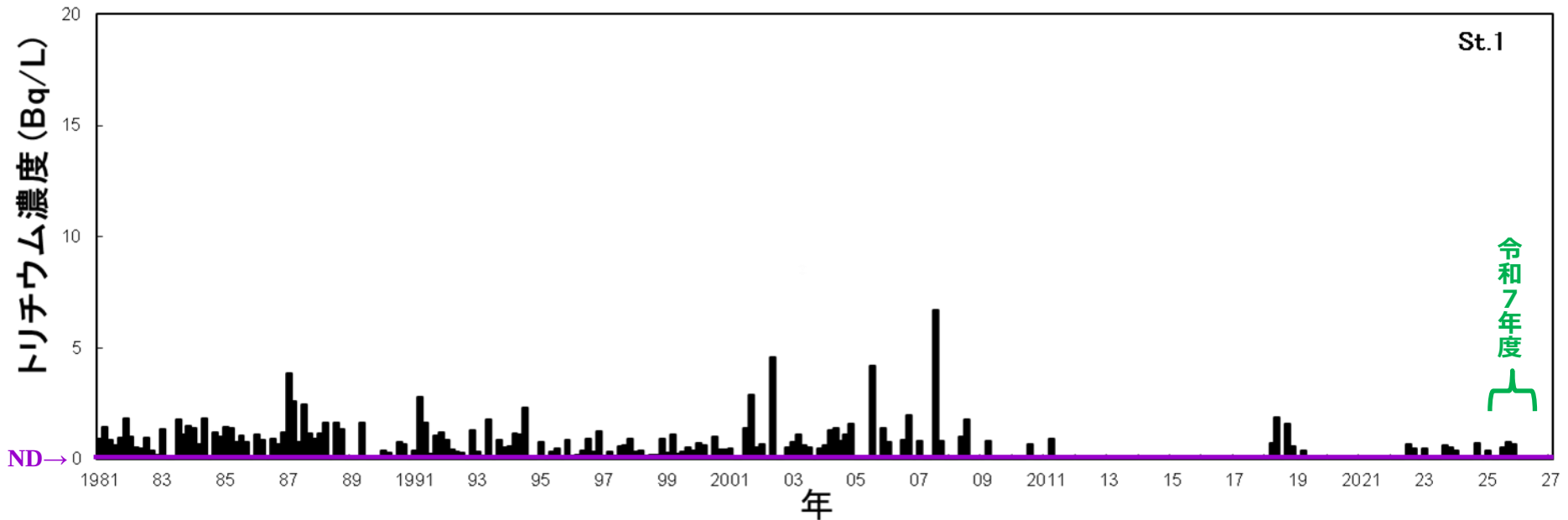
トリチウム分析結果

- 海水及び陸水から検出されたトリチウムは、いずれも過去10年間の変動の範囲内であった。

(資料 3 - 2 p.29)

海水中のトリチウム濃度の経年変化

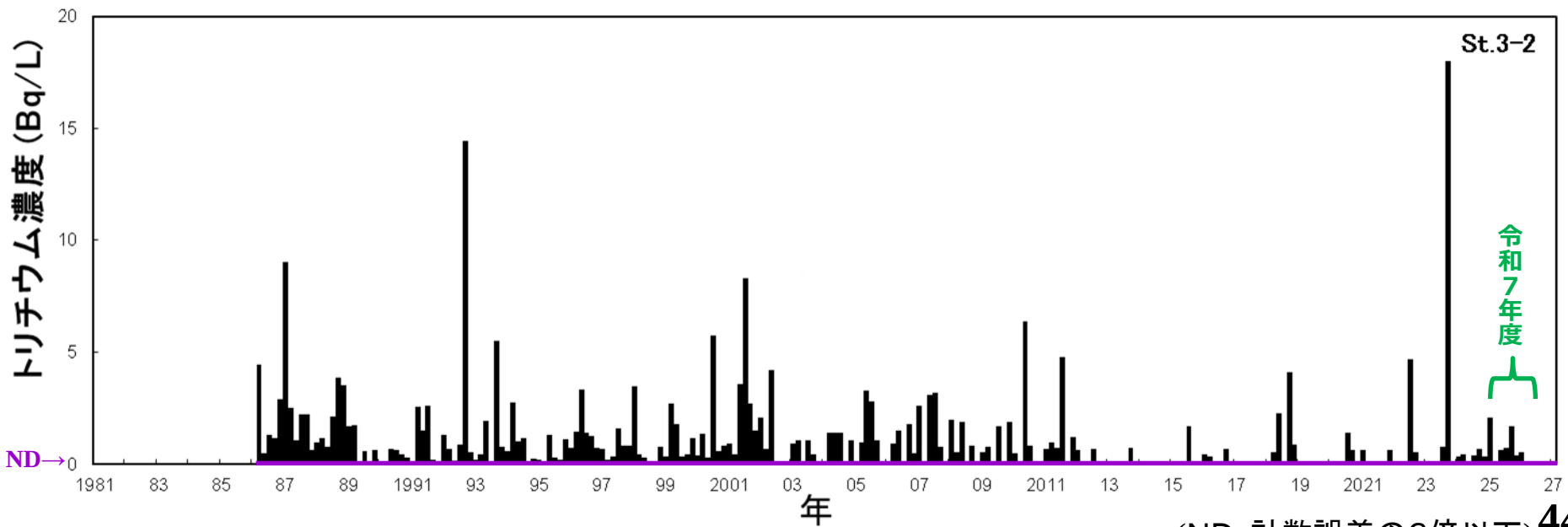
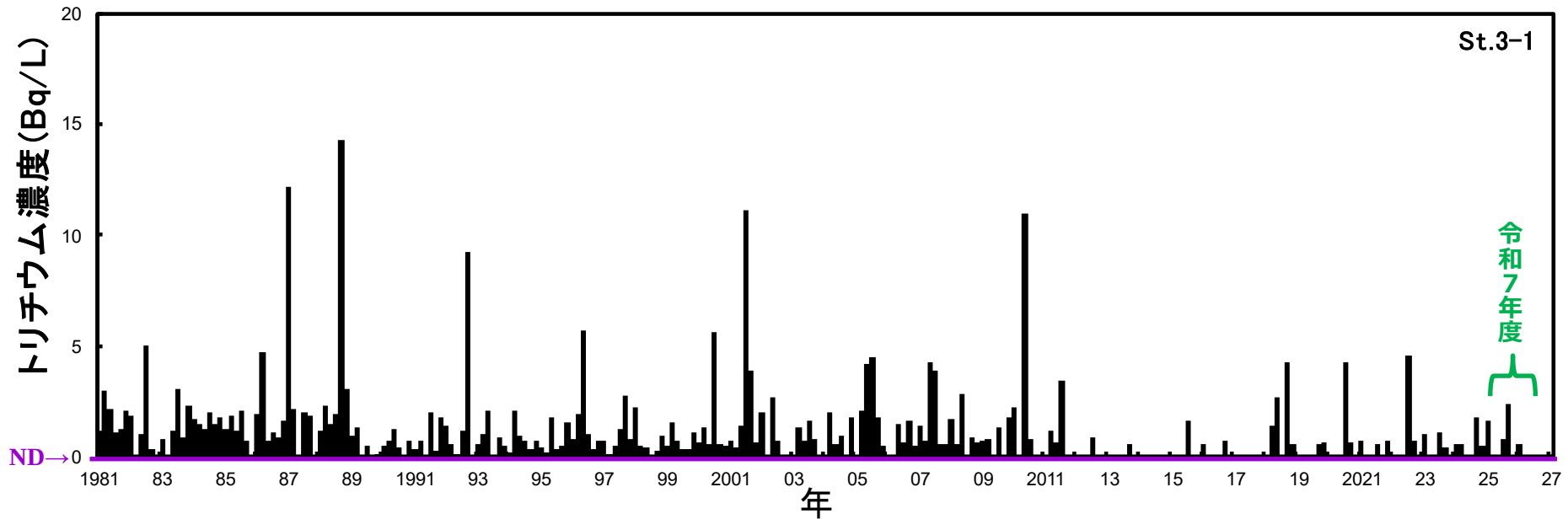
資料3-2 p. 29



(ND: 計数誤差の3倍以下) 43

海水中のトリチウム濃度の経年変化

資料3-2 p. 29



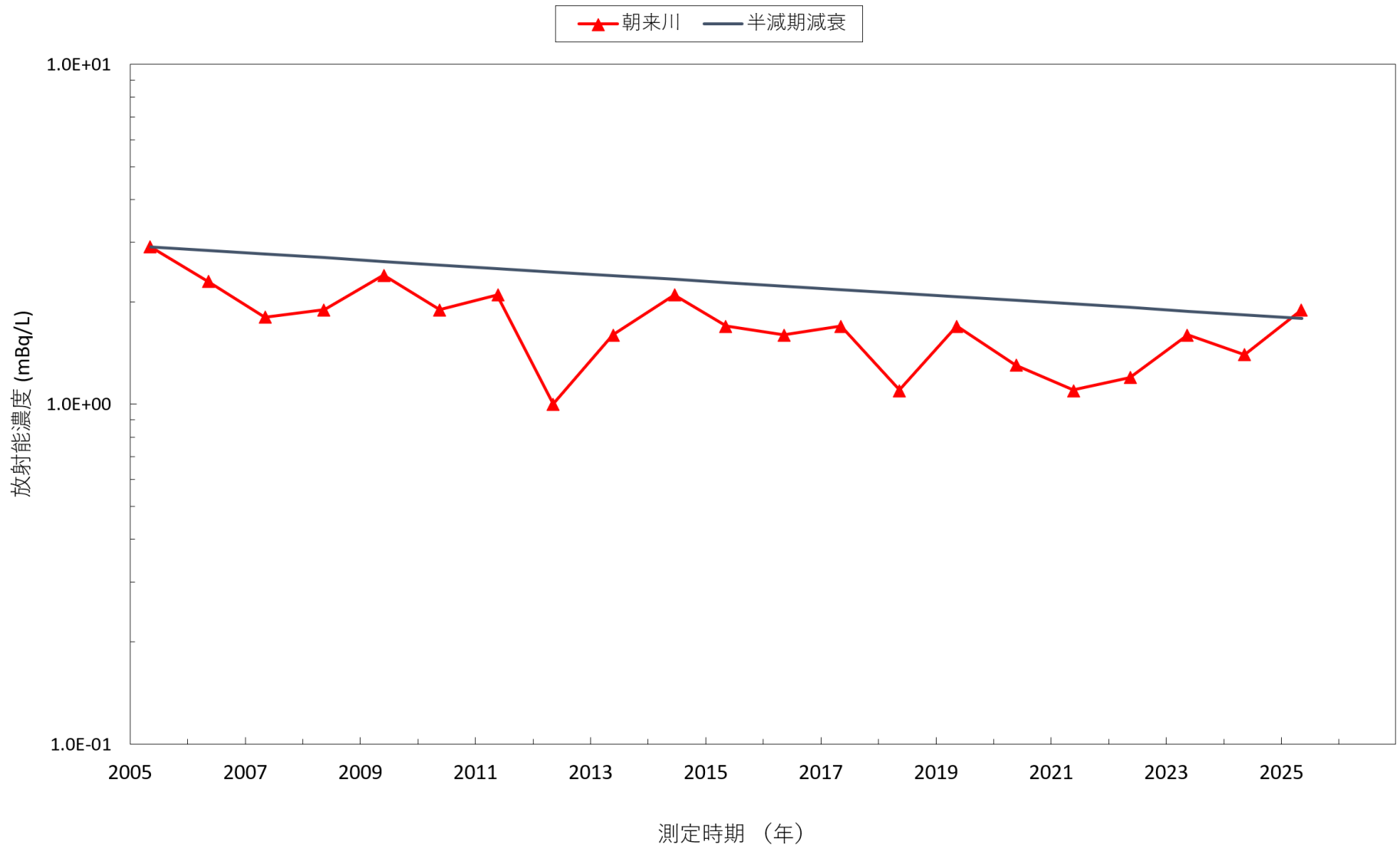
(ND: 計数誤差の3倍以下) 44

ストロンチウム-90

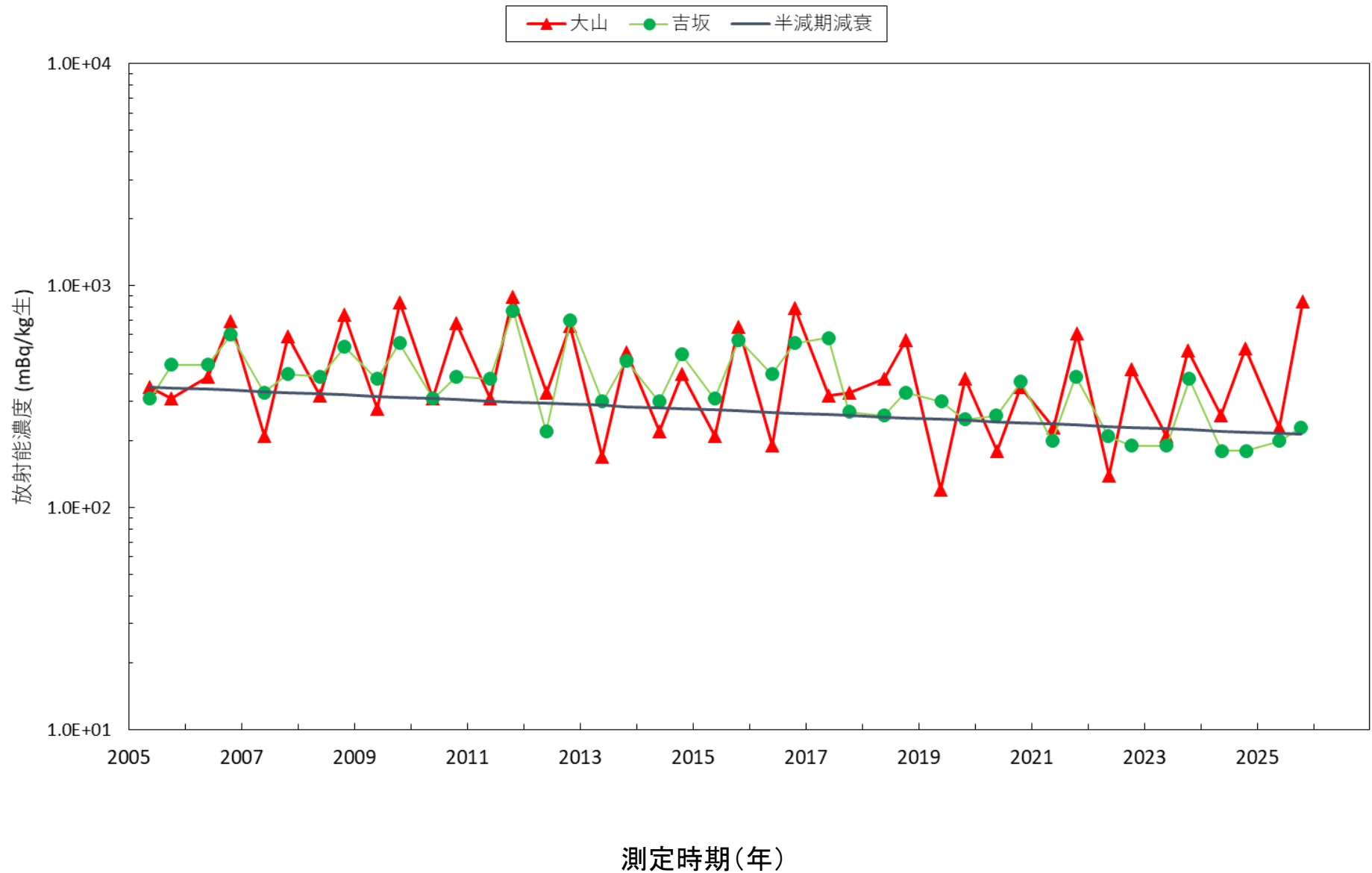
- 陸水1試料(朝来川)、よもぎ1試料(大山10月分)が過去10年間の最大値を超過した。
- その他は、過去に検出された程度の濃度か、計数誤差の3倍以下であった。

(資料3-2 p.30)

陸水（朝来川）中のSr-90の経年変化



よもぎ中のSr-90の経年変化



被ばく線量の評価

- 自然放射線以外の影響による地域の公衆被ばく線量は、外部被ばく及び内部被ばくを合わせても、 1 mSv/年 はもとより、発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値($50\text{ }\mu\text{ Sv/年}$)についても十分下回っていた。

令和 7 年度
(令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月)

**環境放射線測定結果は
以上のとおりでした。**